

看護科 (1年次)

2025年度 シラバス目次

科目名	項
論理的思考の基礎	2
看護学入門Ⅰ 生物学	3
看護学入門Ⅱ 物理学	4
社会学	5
心理学	7
対人関係論	9
医療基礎英語	10
医療基礎中国語	12
情報科学	13
人体構造機能学Ⅰ 解剖生理の基礎 細胞 血液と循環 呼吸器	15
人体構造機能学Ⅱ 筋・骨格 脳神経 内分泌	17
人体構造機能学Ⅲ 消化器 腎・泌尿 器 自己免疫	19
病態治療学Ⅰ 消化器 内分泌 栄養 代謝	21
病態治療学Ⅱ 呼吸器	23
病態治療学Ⅲ 循環器	24
病態治療学Ⅳ 脳神経 運動器	25
病態治療学Ⅴ 腎・泌尿器 自己免疫	28
病態治療学Ⅵ 感覚器(眼・皮膚・耳・ 歯科口腔) 血液	30
病理学	32
感染症学	33
臨床薬理学	35

科目名	項
医療総論	37
看護学概論	38
基礎看護技術Ⅰ コミュニケーション	40
基礎看護技術Ⅱ 安全・環境	41
基礎看護技術Ⅲ フィジカルアセスメン ト	43
基礎看護技術Ⅳ 食事	45
基礎看護技術Ⅴ 排泄	47
基礎看護技術Ⅵ 活動・休息	49
基礎看護技術Ⅶ 清潔・衣生活	51
臨床看護技術Ⅰ 検査・治療・処置	53
臨床看護技術Ⅱ 学習支援	55
地域で暮らす人の理解	56
療養者と家族の理解	57
成人看護学概論	58
病気と共に生きる成人を支えるⅠ リハ ビリテーション期	60
老年看護学概論	62
小児看護学概論	64
母性看護学概論	66
精神看護学概論	68
基礎看護学実習Ⅰ 看護活動の実際を 知る	70
地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域とその 人々の暮らしの特徴を知る	73

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	論理的思考の基礎
担当者	勝見 ひろみ
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	福澤一吉 看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル 医学書院

授業概要と目的
<p>看護師には、科学的根拠に基づいた思考力や他者へ説明する力が必要とされている。そのためには、論理的な思考のトレーニングを身につける必要があります。論理的思考の基礎力として、読む・書く・述べるなどを実際に演習しながら、課題レポート作成を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・「論理・論証とは？」	・論理・論証とは何かを述べる ・「思考すること」の意味がわかる	勝見 ひろみ
2	前期	・「接続表現」 一文と文の関係を明確にする一	・接続表現を使って論理的に文章を書く・読む	
3	前期	・「論理的に考える方法」	・帰納的論証の表現方法がわかる。 ・文章から論証に必要な論拠を推定する。	
4	前期	・「論証を図で示す」	・論証のタイプを述べる。 ・論証間の関係を明確にするために図示する。	
5	前期	・「論理的に書く」	・一文一義で書いて、文と文を論理的に関係づける	
6	前期	・「レポート作成」	・レポート作成の方法がわかる。 ・レポート課題に必要な情報収集を行い、自分の考えを整理する。	
7	前期		・レポート課題について、根拠のある考えを第三者が読んで理解しやすい文章で記述する。	
8	前期	・「レポート作成」(45分)	・レポート課題について、論理的な文章となっているかを確認し、レポートとして提出する。	
成績評価方法	課題・レポート評価 100%			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	看護学入門 I 生物学
担当者	川瀬 基弘
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 生物学

授業概要と目的

看護学に必要な生物学の基礎知識を学び、専門基礎分野および専門分野の理解に役立てる。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・「生命体のつくりとはたらき」を理解する。	・生物における細胞の構造と機能を説明する。	川瀬 基弘
2	前期	・「生命維持のエネルギー」について理解する。	・生体内の化学反応、ATPの生合成を説明する。	
3	前期	・「細胞の増殖とからだのなりたち」について理解する。	・細胞分裂、細胞の分化と個体のなりたち、細胞の老化について説明する。	
4	前期	・「遺伝情報とその伝達・発現のしくみ」について理解する。	・遺伝の法則と染色体について説明する。	
5	前期	・「生殖と発生」について理解する。	・生殖と発生の機序について説明する。	
6	前期	・「個体の調節」について理解する。	・ホメオスタシスと各器官性の主要な働きを説明する。	
7	前期	・「刺激の受容と行動」について理解する。	・神経系における情報処理の特徴と働きを説明する。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験 100%			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	看護学入門Ⅱ 物理学
担当者	小林 記之
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 物理学

授業概要と目的

看護学に必要な物理学の基礎知識を学び、専門基礎分野および専門分野の理解に役立てる。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・「力とつりあい」を理解する。	・力のつりあいと運動の法則について説明する。	小林 記之
2	前期	・「動いている物体の力学」を理解する。	・重力、力のモーメント、トルクについて説明する。	
3	前期	・「圧力」について理解する。	・圧力とその原理、摩擦、浮力、サイフオンの原理について説明する。	
4	前期	・「熱現象」について理解する。	・温度と熱の性質とその法則を説明する。	
5	前期	・「振動、光と音」について理解する。	・音の性質と伝わり方を説明する。 ・光の性質、光の反射と屈折について説明する。	
6	前期	・「電気と磁気」について理解する。	・電気の原理と法則、磁気の性質について説明する。	
7	前期	・「原子力と放射線」について理解する。	・放射線の種類と性質、放射線の人体への影響を説明する。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験 100%			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	社会学
担当者	山口 宏
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院

授業概要と目的

社会の機能と近代社会の発展、家族・貧困・差別・異文化理解などを社会的に捉え、社会との関わりを積極的に考えることができるための基礎的知識を養う。また人間は社会環境と相互に作用するものであり、社会における自分の位置づけを社会的に捉え、学生自らも社会の一員であることを自覚するよう学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「社会学ガイダンス」 ・社会学がどういうものか、概略を知る。	「常識を疑う視角を感じ取る」 ・昔の出来事・事件をいくつか見ていくなかで、価値観の違いを具体的に記述できるようにする。	山口 宏
2	前期	「戦後社会・文化史①」 ・終戦から高度成長期の時代変化を押さえる。	「終戦～高度成長期の日常の社会状況を知る」 ・映像も通して終戦後の諸側面を見ることで、生活を具体的に記述できるようにし、現在の高齢層が生きてきた時代の流行を複数挙げられるようにする。	
3	前期	「戦後社会・文化史②」 ・1960年代の社会運動とカウンターカルチャーを知る。	「戦後の社会運動の流れを理解する」 ・学生運動とその暴力的変質をたどることを通して、現在との違いを感じ、具体的に記述できるようにする。	
4	前期	「戦後社会・文化史③」 ・豊かさの達成と、公害問題の複雑さを知る。	「1970年代の感覚変化と社会問題を知る」 ・万博に象徴されるものと、公害問題における地域社会の複雑な対立関係を、説明できるようにする。	
5	前期	「戦後社会・文化史④」 ・1980年代の光と影を押さえる。	「消費社会とバブル経済の論理を考える」 ・1980年代の空気とバブル経済の盛衰を見ることで、高度消費社会の仕組みとマイナス面について説明できるようにする。	
6	前期	「戦後社会・文化史⑤」 ・1990年代から現在への流れを理解する。	「コミュニケーションの変容と現在の空気を理解する」 ・心をめぐるテーマが前景に出てくる社会変化を理解し、現在のコミュニケーションの特徴をとらえ、自分なりの意見が書けるようにする。	
7	前期	「家族をめぐる諸問題」 ・家族の歴史的変化と現在の課題を理解する。	「家族の変化と現在の課題を理解する」 ・グラフデータを読み込んで説明できるようにし、虐待や孤立などさまざまな状況を踏まえて、多様なつながりの可能性を具体的に述べられるようにする。	
8	前期	「貧困と社会的排除」 ・貧困の多面性を理解する。	「貧困の多様な側面を理解する」 ・貧困が健康やコミュニケーションなど様々な面に関わってくることを理解し、それに対する様々な取り組みを知り、その可能性について意見を表現できるようにする。	

9	前期	「宗教と社会」 ・世界宗教の特徴と、近年の日本での問題を理解する。	「世界的宗教の特質、および近年の日本での問題を理解する」 ・医療現場でも多様な宗教の人に触れることを想定しながら、諸宗教の特質を表現できるようにし、また新宗教に惹かれる心性を理解し論じられるようにする。	山口 宏	
10	前期	「差別を考える視角」 ・日常のイメージから差別を考える。	「日常で作られるイメージから考える」 ・高齢者や障害者をめぐって、いつの間にか作られるイメージが押しつけられやすいことを表現できるようにし、また複数の要因が重なった場合の差別問題も具体的に記述できるようにする。		
11	前期	「優生思想の問題」 ・優生思想の歴史と、現在にもつながる問題を考える。	「優生思想の歴史と現在を理解する」 ・戦争と障害者といったテーマも含めながら、過去の優生思想を整理して記述できるようにし、今につながる部分について意見を述べられるようにする。		
12	前期	「日本のなかの外国人」 ・外国人労働者と難民申請の現状を理解する。	「外国人の困窮者の現状を理解する」 ・技能実習生や難民申請者の苦境を、医療が受けられない状況なども含めて理解し、論じられるようにする。		
13	前期	「民主主義の危うさと可能性」 ・強力な指導者を求める危うさと、民主主義の可能性を考える。	「独裁的指導者を招く心性とあるべき民主主義を理解する」 ・社会心理実験的な映像も使いつつ、強い指導者に従いたくなる心的機制について意見を述べられるようにし、取り組みの諸事例を見ながら考え、医療・福祉職とも重ねて意見を述べられるようにする。		
14	前期	グループワーク	・これまで扱ったテーマを絡めながら、10個程度の問題に対して、話し合っそれぞれ答えを発表する。		
15	前期	授業総括	・これまでの補足として話と映像を加え、全体的なまとめも含めた意見を述べられるようにする。		
成績評価方法	授業内での記述 90% 授業態度・授業参加度 10%				
準備学習など	毎回のテーマをシラバスで確認しながら、意見が書きやすいよう関心をもって、テーマに関わる話題・問題など調べておいてください。				
留意事項					

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	心理学
担当者	杉山 陽香
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院

授業概要と目的

心理学の基本の考え方と心理学の研究手法、人間の心理を理解するために必要な考え方を学ぶ。また、学習や動機付けを学び、今後専門分野で必要となる患者教育へのかかわり方の基本となる考え方を学ぶ。さらに、心理療法の目的と方法の基礎的知識を修得する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	・心理学の成り立ちを学ぶ。	・心理学の歴史と、ヒトを解き明かす上で必要な進化論に基づく考え方を身につける。	杉山 陽香
2	通年	・ヒトの感覚と知覚について学ぶ。	・ヒトが外界を知覚する仕組みと脳の自動情報処理について理解する(主に視覚)。	
3	通年	・ヒトの記憶について学ぶ。	・記憶の理論的分類について知り、記憶メカニズムを説明できる。	
4	通年	「短期記憶(演習)」	・短期記憶容量についての実験的研究を体験し、理論的予測と実験結果を対比する。	
5	通年	・知能について学ぶ。	・思考・言語・知能などヒトの心理の高次機能を知り、知能指数について説明できる。	
6	通年	・学習について学ぶ。(1)	・学習理論の基礎である反射と条件反射について理解し、行動の強化について学ぶ。	
7	通年	・学習について学ぶ。(2)	・生物一般に見られる学習とヒト固有の学習を対比する。	
8	通年	・感情と動機づけについて学ぶ。	・感情の定義と特徴について学び、感情と動機づけの関係について知る。	
9	通年	・性格とパーソナリティについて学ぶ。	・性格に関する理論と測定法について知り、俗にいう心理テストとの違いを理解する。	
10	通年	「性格の測定(演習)」	・性格の測定についての調査的研究を体験し、測定法を知る。	
11	通年	・社会と集団について学ぶ。	・対人における他者の認知のしかたを学び、集団でのヒトのふるまいを知る。	
12	通年	・ヒトの発達について学ぶ。	・ヒトの発達段階とそれぞれの時期における特徴と課題を知る。	
13	通年	・心理臨床	・代表的な精神障害について分類し、心理臨床の現場で用いられる心理療法を知る。	
14	通年	・看護と心理	・医療職との関連から心理臨床の諸問題について知る。	
15	通年	1)授業総括 2)科目試験(60分)	・筆記試験を行い、知識の定着を確認する。	

成績評価方法	筆記試験 100%
準備学習など	授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理する。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理する。
留意事項	

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1学次
科目名	対人関係論
担当者	蟹江 哲太郎
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	なし

授業概要と目的

グループ実習を通して、チームで活動する際に有効なコミュニケーションについて理解し、身に付ける。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・体験学習の循環過程(EIAH'Eサイクル)について、理解する。	・体験学習の循環過程のそれぞれの段階について、説明することができる。 ・自らのグループ実習での体験を、体験学習の循環過程に則しながら、説明、記述できる。	蟹江 哲太郎
2	前期	・自らの内面の動きや対人関係の変化を、「コンテンツ」と「プロセス」の両側から理解する。	・人間関係を捉える視点「コンテンツ」「プロセス」とは何か説明することができる。 ・自らのグループ実習での体験を、「コンテンツ」「プロセス」の視点から記述できる	
3	前期	・コミュニケーションを阻害する要因を理解する。	・コミュニケーションのプロセス(記号化・送信・受信・解読)がどんなことをすることなのか説明することができる。 ・上記4つの各段階における阻害要因を具体的に説明することができる。	
4	前期	・チームコミュニケーションと傾聴のスキルを習得する。	・集団でコミュニケーションをする時に起こる様々なことを体験する。 ・傾聴のスキルをトレーニングする。	
5	前期	・グループ実習を通して、自分や他者、グループ全体の状態や変化を、行動・思考・感情の側面から理解する。	・コミュニケーションにおける行動・思考・感情の役割を説明することができる。 ・グループ実習を通しての自分の心情の変化や学習事項を記述できる。	
6	前期	・人間関係におけるグループプロセスについて、理解する。	・グループプロセスの種類について、説明することができる。 ・自らのグループ実習での体験を、グループプロセスと関連させて説明することができる。	
7	前期	・コンセンサスによる意思決定をする際の留意点について理解する。	・チームでコンセンサスをとる際の留意点について、説明できる。 ・コンセンサスを得るために必要なコミュニケーションについて、グループ実習での体験と関連させながら、記述できる。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	授業毎の小課題 60% 最終筆記試験 40%			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	医療基礎英語
担当者	違道 アポロニア
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	Speaking of Nursing (Main Textbook)

授業概要と目的

外国人の増加に伴い、必要となる臨床現場に即した外国語の活用の基礎について学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	Course introduction, outline, and expectations. Students and teacher introductions/activities	コースの紹介、概要、学習内容、目標 生徒と教師の紹介/アクティビティ	違道 アポロニア
2	通年	Asking Basic Questions	基本的な質問/スピーキング/文法(動詞beとdo)/はいといいえの質問/練習	
3	通年	A Patient's First Visit	受付での患者様とのコミュニケーション(初診)/ 「be」での質問・発言/国・国籍/フォームの記入	
4	通年	Where's Internal Medicine ?	病院にある場所/命令動詞形/病院での指示/ 前置詞動詞句を使用した道順の指示	
5	通年	Admission to the Hospital	患者の受付/時を表す前置詞/助けを申し出る 動詞	
6	通年	Giving Information	患者さんとの会話(情報提供)/文法:文節/文 法:可算名詞と不可算名詞/文法:量の表現/医 療用品	
7	通年	Symptoms	患者の症状、問題の特定/文法:病状の名詞と 形容詞の一致	
8	通年	Injuries and Emergencies	体の部分の特定/文法:過去形/怪我の種類/重 症度のレベル	
9	通年	How Are You Feeling ?	治療後の患者とのコミュニケーションと確認(体 調を聞く)/文法:現在進行形と現在形/体内の 部位とその機能の特定	
10	通年	A Patients Medical History	病歴/文法::現在完了形、現在形、過去形/病 気についての質問と患者とのコミュニケーション	

11	通年	Medicine	薬に関する指示/文法:頻度の副詞、法助動詞/ 薬の種類	違道 アポロニア
12	通年	I'm Going to Give you an IV	患者に点滴をする時の会話と指示/文法:未来 動詞	
13	通年	Congratulations ! You're Having a Baby Girl	産婦人科病棟の患者とのコミュニケーション/ 文法:現在進行系は未来に使用される代名詞・動 詞	
14	通年	REVIEWS/ Practicing for the Speaking Exams/Pointers for the Final Written Exams	教材に対する学生の理解度の確認 / スピーキ ング試験のための口頭練習 / 最終試験のため の語彙ポイント	
15	通年	Speaking Examination (Oral pairwork) Written Examination		
成績評価方法		出席率・授業参加率:20% 試験最終験(スピーキング力30%、筆記・総合テスト50%)		
準備学習など		話す練習をする。 スピーキングは磨く必要があるスキルで、練習すればするほど上手くなり、最終的には語彙を適切な 文脈で使用し英語で話すことです。		
留意事項		<ol style="list-style-type: none"> 1.毎回の授業で教科書と英和辞典、和英辞典を持参する。 2.授業で学んだ語彙とフレーズを、口頭と書面の両方で復習します。 3.授業をスムーズに進めていくため、教材の前の単元の宿題をする。 4.週に60～90分学んだ内容を復習します。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げられた語彙、フレーズ、対話を復習します。 ・授業の前に割り当てられた宿題を終わらせてください。 ・各クラスに教材や参考資料を持参してください。 		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	医療基礎中国語
担当者	徳谷 冬暁
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	医療現場の日常会話ができるように、音声コンテンツの学習を取り入れ、単語や会話を反復練習させる。
教科書・参考書	医療系学生のための初級中国語 白帝社

授業概要と目的

外国人の増加に伴い、必要となる臨床現場に即した中国語の活用の基礎について学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	概論	標準語、音節、発音など	徳谷 冬暁
2	通年	基本的な会話	你好などの日常挨拶表現	
3	通年	人称代詞	主語+述語動詞+目的語	
4	通年	疑問代詞を使った疑問文	”~吧, ~吗”推量を表す文末助詞	
5	通年	健康保険証を持っていますか? 1	”的”の用法: 連体修飾語+的+被修飾語	
6	通年	健康保険証を持っていますか? 2	疑問代詞を使った疑問文と反復疑問文	
7	通年	検査室はどこですか? 1	願望を表わす助動詞: 想+動詞	
8	通年	検査室はどこですか? 2	選択疑問文: A还是B?	
9	通年	どうしましたか? 1	状態補語: 動詞/形容詞+得+補語	
10	通年	どうしましたか? 2	使役表現: 使役動詞+人+動詞	
11	通年	この薬を飲んだことがありますか? 1	二重目的語: 動詞+間接目的語+直接目的語	
12	通年	この薬を飲んだことがありますか? 2	経験態: 動詞+过	
13	通年	今までどんな病気がありましたか?	完了態: 動詞+了	
14	通年	授業総括	まとめ 総復習	
15	通年	科目試験(60分)		
成績評価方法	学習態度・実践表現力30% レポート・課題30% 筆記試験40%			
準備学習など	テキストと音声CDを用い、予習復習をすること			
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	情報科学
担当者	小里 七重 高取 幸江
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	講師著オリジナルテキスト 情報リテラシー入門書 Windows11&Office2021 FOM出版 SNSにおける個人情報取り扱いガイドブック 看護情報学 医学書院

授業概要と目的

情報科学の初学者にも理解できるように、具体例を用いながら情報科学の基礎知識について概説します。現在、情報通信、情報メディア技術の発展に伴いコンピュータは身の回りのさまざまなところに組み込まれ、利用されています。このコンピュータの原理や、インターネットの仕組み、コンピュータセキュリティといった情報に関する科学・技術的事項の習得を目指します。また現在医療はDX化が進み、保健・医療・福祉のさまざまな場所で利用されており、そのため、コンピュータの基本的な操作とリテラシーについて基本の知識を学びます。
概念だけでなく、実機演習を通じてコンピュータを「触れる」だけではなく、主体的に考えて作成・データ分析し「活用」し、即実践できるように学んでいきます。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	看護情報学とコンピュータ概論を理解する。	・看護情報学の基礎知識を述べる。 ・コンピュータの基礎知識を述べる。	小里 七重
2	前期	ネットワーク概論とインターネットの活用を理解する。	・ネットワークの基礎知識を述べる。 ・Windowsの基礎知識を述べる。	
3	前期	情報モラル&情報セキュリティを理解する。	・Lesson1情報化社会のモラルとセキュリティ ・Lesson2個人情報の適切な取り扱い ・Lesson3デジタル時代の著作権 ・Lesson4ネット社会に潜む危険と対策 ・Lesson5メールによるコミュニケーション ・参考Lesson6Webによるコミュニケーション ・参考Lesson7モバイル機器の活用と管理 ・別紙NS個人情報取り扱い	
4	前期	Windows編 ワープロソフトの利用(作成)	・STEP1Windowsについて ・STEP7ファイルを上手に管理しよう ・STEP9インターネットを使ってみよう ・STEP10Windowsを終了しよう 参考学習文献検索 ・STEP1ワープロソフトについて ・STEP2基本的な文書を作成しよう 補足 講師用PCアクセス方法:課題提出・テキスト データコピー	
5	前期	ワープロソフトの活用(編集)	・STEP3図や表を挿入しよう 補足 図形描画機能	
6	前期	ワープロソフトの活用(編集)	・STEP4文書を印刷しよう ・STEP5表現力をアップする機能を使ってみよう 付録 ビジネス文書の書き方	
7	前期	ワープロソフトの活用(編集) 実技試験	・練習問題 実技試験【レポート作成】	

8	前期	表計算ソフトの活用(表作成)	<ul style="list-style-type: none"> STEP1表計算ソフトについて STEP2データを入力しよう STEP3表を作成しよう 	小里 七重
9	前期	表計算ソフトの活用(編集)	<ul style="list-style-type: none"> STEP4表を編集しよう STEP5表を印刷しよう 練習問題 	
10	前期	表計算ソフトの活用(データベース)	<ul style="list-style-type: none"> STEP6グラフを作成しよう STEP7データベースを操作しよう 参考STEP8複数のシートを操作しよう 	
11	前期	表計算ソフトの活用 実技試験 データ分析	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題 実技試験【データ分析】 	
12	前期	プレゼンテーションソフトの活用 プレテスト実施について説明	<ul style="list-style-type: none"> STEP1プレゼンテーションソフトについて STEP2プレゼンテーションを作成しよう STEP3オブジェクトを操作しよう STEP4プレゼンテーションの構成を変更しよう STEP5プレゼンテーションに動きを設定しよう STEP6プレゼンテーションを印刷しよう 付録プレゼンテーションの流れ プレテスト配布 	高取 幸江
13	前期	病院内のICT	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテの実際を説明できる。 	
14	前期	未来のICT	<ul style="list-style-type: none"> これからの医療現場でのAIについて説明できる。 	
15	前期	1) 授業総括2) 科目試験(60分)		小里 七重
成績評価方法		<p>(小里) 実技試験 授業内で実施します。後日提出はありません。(テキスト持ち込み可) 学科試験 Google Formを使用したオンライン試験を実施します。(または紙上試験)なお、試験の練習用として事前にオンライン上でプレテストを公開します。 配点: 学科試験70点+実技試験15点×2回 (高取) 筆記試験 15%</p>		
準備学習など		<p>(小里) 使用アプリケーション 共有データ揭示場所(TeamsチームまたはSharePoint)※後日連絡 Microsoft365 Word・Excel・PowerPoint 使用ブラウザ MicrosoftEdgeまたはGoogle Chrome Microsoft365がセットアップされているパソコンを持ってきてください。なお、基本操作(マウス・キーボード・ファイル管理など)は習得済みで進めていきます。事前に使用アプリケーションの起動確認やマウスやキーボード基本操作をしておいてください。また、キーボード練習は「e-タイピング」サイトがおすすめです。 https://www.e-typing.ne.jp/</p>		
留意事項				

学科・学年	看護科 1年次
科目名	人体構造機能学 I 解剖生理の基礎 細胞 血液と循環 呼吸器
担当者	野村 隆士
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが何らかの原因によって損なわれることで病気になることから、正常な構造・機能を知ることが医学に携わる人としての重要な科目である。
 ここでは医療従事者の共通用語である解剖学的名称を学習するするとともに人体の細胞・血液と循環、呼吸の構造を理解するとともに、その機能について理解を深める。

医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・リンパ系の構造と機能を理解する。	・体の各部位の名称を説明できる。 ・体の向き、方向の名称を説明できる。 ・関節の動く方向の名称を説明できる。	野村 隆士
2	前期	・人体を構成する階層構造を理解し、構成最小単位である細胞の構造・機能を理解する。	・人体を構成する階層構造を説明できる。 ・細胞内の構造と各細胞内小器官の機能を説明できる。 ・染色体、遺伝子、ゲノム、DNAを説明できる。	
3	前期	・細胞の次の階層構造である組織を理解する。	・上皮組織を説明できる。 ・結合組織を説明できる。 ・筋組織を説明できる。 ・神経組織を説明できる。	
4	前期	・組織の次の階層構造である器官、器官系を理解する。	・管腔器官と実質器官の違いを説明できる。 ・各器官系の機能とその連携を説明できる。	
5	前期	・血液と循環器系(1) 血液と循環器の構造と機能を理解する。 ①	・血液の構造と機能を説明できる。	
6	前期	・血液と循環器系(2) 血液と循環器の構造と機能を理解する。 ②	・血液の発生について説明できる。 ・心臓の構造と機能を説明できる。	
7	前期	・血液と循環器系(3) 血液と循環器の構造と機能を理解する。 ③	・血管の構造と機能を説明できる。	
8	前期	・血液と循環器系(4) 血液と循環器の構造と機能を理解する。 ④	・循環機能の構造と機能を説明できる。	

9	前期	・血液と循環器系(5) 血液と循環器の構造と機能を理解する。 ⑤	・心臓、血管の老化と成長について説明できる。	野村 隆士
10	前期	・血液と循環器系(6) 血液と循環器の構造と機能を理解する。 ⑥	・リンパ系の構造と機能を説明できる。	
11	前期	・呼吸器系担当臓器の位置関係を確認し、 上気道の構造、機能を理解する。	・呼吸器系臓器の位置関係を説明できる。 ・上気道の臓器の位置関係、機能を説明できる。	
12	前期	・下気道、肺の構造、呼吸筋、縦隔の構成 を理解する。	・下気道の臓器の位置関係、機能を説明できる。 ・肺の構造を説明できる。 ・呼吸筋を説明できる。 ・縦隔の構成を説明できる。	
13	前期	・呼吸器系の機能を理解する。	・内呼吸、外呼吸を説明できる。 ・各種呼吸量を説明できる。 ・酸素解離曲線を説明できる。	
14	前期	・呼吸の制御を理解する。	・呼吸中枢を説明できる。 ・呼吸の自律的制御機構を説明できる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験 100%		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
留意事項		講義内で提示したミニマム問題集を復習しておくこと。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	人体構造機能学Ⅱ 筋・骨格 脳神経 内分泌
担当者	桑原 裕子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>正常な身体の仕組みと働きが何らかの原因によって損なわれることで病気になることから、正常な構造・機能を知ることが医学に携わる人としての重要な科目である。</p> <p>ここでは骨・骨格系、脳神経系、自己免疫の構造・しくみを理解するとともに、その機能について理解を深める。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・全身骨格と骨の微細構造および骨の発生と成長を理解する。	・全身骨格の構成と骨の微細構造および骨の発生と成長を説明できる。	桑原 裕子
2	前期	・骨の連結と種類および骨格筋の構造と働きを理解する。	・骨の連結および骨格筋の構造と働きを説明できる。	
3	前期	・体幹と頭頸部の骨と筋の構造と働きを理解する。	・体幹と頭頸部の骨と筋の構造と働きを説明できる。	
4	前期	・上下肢の骨と筋の構造と働きを理解する。	・上下肢の骨と筋の構造と働きを説明できる。	
5	前期	・骨格筋収縮機構と収縮の種類と特性を理解する。	・骨格筋の収縮機構と収縮の種類と特性を説明できる。	
6	前期	・神経系の構成とニューロンの興奮とその伝導について理解する。	・神経系の構成とニューロンの興奮とその伝導について説明できる。	
7	前期	・脊髄、小脳および脳幹の構造と働きを理解する。	・脊髄、小脳および脳幹の構造と主な中枢や反射について説明できる。	
8	前期	・間脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と働き、および高次機能を理解する。	・間脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と中枢の局在、および高次機能について説明できる。	
9	前期	・脊髄神経および神経叢の構成や上肢や下肢の支配域を理解する。	・脊髄神経および神経叢の構成や上肢や下肢の支配域を説明できる。	
10	前期	・脳神経の種類とその働きや支配域を理解する。	・脳神経の種類とその働きや支配域を説明できる。	
11	前期	・視床下部一下垂体系の構造的関連と働きを理解する。	・視床下部と下垂体の構造的関連と分泌されるホルモンの働きを説明できる。	

12	前期	・甲状腺、上皮小体、睪臓の構造と働きを理解する。	・甲状腺、上皮小体、睪臓の構造と分泌されるホルモンの働きを説明できる。	桑原裕子
13	前期	・副腎、性腺の構造と働きを理解する。	・副腎、性腺の構造と分泌されるホルモンの働きを説明できる。	
14	前期	・ホルモン分泌の調節機序を理解する。	・ホルモン分泌の調節機序および糖代謝およびカルシウム代謝調節を説明できる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験 100%		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	人体構造機能学Ⅲ 消化器 腎・泌尿器 自己免疫
担当者	高野 博充 野村 隆士
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが何らかの原因によって損なわれることで病気になることから、正常な構造・機能を知ることが医学に携わる人としての重要な科目である。
 ここでは腎・泌尿器系、消化器、自己免疫の構造としくみを理解するとともにその機能についても理解を深める。
 医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「消化器系の構造と機能」 ・食物から栄養を吸収する仕組みを理解する。	「食欲の調節・口～食道の構造と機能」 ・食欲に関わるホルモンを挙げられる。食物の咀嚼から嚥下の仕組みを説明できる。	高野 博充
2	前期		「胃と小腸の構造と機能」 ・胃と小腸の壁の構造と運動の仕組みを説明できる。	
3	前期		「膵臓・肝臓・胆嚢の機能」 ・消化に関わる膵臓と肝臓の構造や分泌物を説明できる。	
4	前期			
5	前期		「栄養素の消化と吸収」 ・三大栄養素の消化に関わる酵素名を挙げられ、吸収の仕組みを説明できる。	
6	前期		「大腸の構造と機能」 ・排便反射を説明できる。	
7	前期	「泌尿器系の構造と機能」 ・泌尿器の主な構造と体液調節機能について理解する。	「腎臓の構造と機能」 ・糸球体と尿細管の構造を説明できる。	
8	前期		「尿の生成」 ・尿の生成の仕組みと成分調節機構について説明できる。	
9	前期		「排尿路」 ・排尿にかかわる神経と筋のはたらきを説明できる。	
10	前期		「体液の調節」 ・体液量、電解質濃度、酸塩基平衡の調節機構を説明できる。	

11	前期	自己免疫(1) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する。	・自己免疫の構造を説明できる。	野村 隆士
12	前期	自己免疫(2) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する。	・非特異的防御機能を説明できる。	
13	前期	自己免疫(3) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する。	・特異的防御機能を説明できる。	
14	前期	自己免疫(4) ・自己免疫の構造とその仕組みを理解する。	・生体防御の関連臓器について説明できる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		(高野)筆記試験 70% 野村70%		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
留意事項		講義内で提示したミニマム問題集を復習しておくこと。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病態治療学 I 消化器 内分泌 栄養代謝
担当者	齋藤 研
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学5 消化器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。
 ここでは消化器系、・栄養代謝、内分泌系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。

医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「食道疾患」	・GERD、アカラシア、マロリーワイス症候群、食道癌等の原因・症状・所見・治療等を知る。	齋藤 研
2	後期	「胃疾患」	・胃炎、機能性胃腸症、胃潰瘍等の原因・症状・所見・治療等を知る。	
3	後期		・胃潰瘍とヘリコバクターピロリの関係性、胃癌や胃ポリープ等の原因・所見・治療等を知る。	
4	後期	「腸疾患」	・潰瘍性大腸炎、クローン病についての比較(原因・症状・所見・治療を含めて)が出来る。	
5	後期	「腸疾患」	・大腸の炎症(感染等、虚血性腸炎、偽膜性腸炎)、大腸ポリープ、大腸憩室、大腸癌等について原因・症状・所見・治療を知る。	
6	後期	「肝臓疾患」	・急性肝炎の原因・症状・所見・治療を知る。 ・慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌の症状・所見・治療を知る。	
7	後期	「胆のう疾患」	・急性胆のう炎の原因・症状・所見・治療を知る。 ・胆石症(総胆管結石、胆のう結石)の原因・症状・所見・治療を知る。	
8	後期	「膵臓疾患」	・急性膵炎の原因・症状・所見・治療を知る。	
9	後期	「副腎疾患」	・クッシング症候群(クッシング病を含む)について原因・症状・所見・治療を知る。 ・原発性アルドステロン症について原因・症状・所見・治療を知る。(レニン、アンギオテンシン、アルドステロン系についての確認) ・褐色細胞腫、機能低下症(アジソン病等)について原因・症状・所見・治療を知る。	

10	後期	「甲状腺疾患」	・甲状腺機能亢進症(バセドウ病、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎等)甲状腺機能低下症(橋本病、クレチン病、シーハン症候群等)について原因・症状・所見・治療を知る。	齋藤 研
11	後期	「副甲状腺疾患」	・副甲状腺機能亢進症について原因・症状・所見・治療を知る。	
12	後期	「糖代謝」	・糖尿病の分類・症状・所見・治療について知る。	
13	後期		・糖尿病の合併症について症状・所見・治療等を知る。	
14	後期	「脂質代謝」 「尿酸代謝」	・高コレステロール血症、高TG血症の原因・症状・所見・治療を知る。 ・高尿酸血症の原因・症状・所見・治療を知る。	
15	後期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験 100%		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病態治療学Ⅱ 呼吸器
担当者	大畑 賀央
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学2 呼吸器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。
 ここでは呼吸器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。

医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	呼吸器疾患の主な症状①	呼吸器疾患にみられる主要な症状の病態生理、鑑別診断が説明できる。	大畑 賀央
2	通年	呼吸器疾患の主な検査 呼吸器疾患の主な治療、処置、手術	呼吸器疾患で行われる主な検査、治療、処置手術を理解し、その内容を説明できる。	
3	通年	呼吸器疾患の主な治療、処置、手術	呼吸器疾患で行われる主要な治療、処置、手術について説明できる。	
4	通年	各論 感染症	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
5	通年	各論 間質性肺疾患 肺循環障害	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
6	通年	各論 気道疾患 肺腫瘍	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
7	通年	各論 呼吸不全 禁煙について	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
8	通年	まとめ 科目試験		
成績評価方法	筆記試験 100%			
準備学習など	予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。			
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病態治療学Ⅲ 循環器
担当者	清水 武
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学3 循環器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。
 ここでは循環器の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。

医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「心電図」 「不整脈」	・心電図の基礎を理解し、心電図について説明できる。 ・不整脈のメカニズムを理解し、その治療について説明できる。	清水 武
2	通年	「循環器疾患の主な症状(1)」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
3	通年	「高血圧」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
4	通年	「動脈硬化」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
5	通年	「急性冠症候群」 「血管疾患」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
6	通年	「心不全」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
7	通年	「弁膜症・心筋症」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
8	通年	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験 100%			
準備学習など	予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。			
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病態治療学Ⅳ 脳神経 運動器
担当者	木村 知寛、矢崎 進
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学10 運動器 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。</p> <p>ここでは脳神経および運動器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	・脳神経の障害について理解する。	・意識障害、言語障害、高次脳機能障害、運動・感覚機能障害、頭蓋内圧亢進症について分類や症状を述べられる。	木村 知寛
2	通年	・脳血管障害について理解する。	・脳血管障害の疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
3	通年	・変性疾患、脱髄性疾患について理解する。	・パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
		・認知症について理解する。	・アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
4	通年	・中枢神経系の感染症について理解する。	・中枢神経系の感染症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
5	通年	・脳腫瘍について理解する。	・脳腫瘍の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
6	通年	・頭部と脊椎・脊髄の外傷について理解する。	・頭部と脊椎・脊髄の外傷の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
7	通年	・機能的疾患(てんかん)について理解する。 ・その他の神経障害について理解する。	・機能的疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。 ・二次性意識障害・神経障害を起こす疾患、ギランバレー症候群、糖尿病性神経障害、圧迫性神経障害の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	

8	通年	<p>「運動器疾患の症状とその病態生理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患の主な症状とその病態生理を理解する。 <p>「運動器疾患の診断・検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患の基本的な診察・検査について理解する。 	<p>「疼痛、形態異常、関節運動の異常、神経の異常、異常歩行」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛、奇形と変形、関節拘縮、神経麻痺、跛行の種類と概念について説明できる。 <p>「診察・診断の流れ、画像検査、電気生理的検査、関節鏡検査、保存療法、手術療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察方法、画像検査(X線検査、MRI、超音波検査、造影検査)、電気生理的検査、関節鏡の方法、解釈について説明できる。
9	通年	<p>「運動器疾患の治療・処置」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器の代表的な保存療法、手術療法について理解する。 <p>「骨折総論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折の基本を理解する。 	<p>「保存療法、手術療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギブス、牽引療法、注射療法、手術療法、義肢装具の種類と方法を説明できる。 <p>「骨折とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折の分類、症状、診断、治癒過程、合併症、後遺症を説明できる。
10	通年	<p>「骨折各論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上肢・下肢・体幹の部位別の骨折について理解する。 	<p>「上肢・下肢・体幹の骨折」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体各部における骨折の種類・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。
11	通年	<p>「脱臼、軟部組織、神経の損傷」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱臼、軟部組織の損傷について理解する。 <p>「神経の損傷」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経の損傷について理解する。 	<p>「脱臼、捻挫・打撲」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。 <p>「脊髄損傷、末梢神経損傷」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。
12	通年	<p>「筋・腱・靭帯などの損傷、先天性疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋・腱・靭帯などの損傷、先天性疾患について理解する。 <p>「骨・関節の炎症性疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨・関節の炎症性疾患について理解する。 	<p>「手の腱損傷、半月損傷、膝靭帯損傷、発育性股関節形成不全、先天性内反足、先天性骨系統疾患、先天異常症候群」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。 <p>「骨・関節の感染症、関節リウマチ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。
13	通年	<p>「骨・関節の炎症性疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨・関節の炎症性疾患について理解する。 <p>「骨・軟部腫瘍」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨・軟部腫瘍について理解する。 <p>「代謝性骨疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨粗鬆症について理解する。 	<p>「リウマチ類縁疾患、変形性関節症」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。 <p>「良性・悪性骨腫瘍、良性・悪性軟部腫瘍」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。 <p>「代謝性骨疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨粗鬆症の概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。
14	通年	<p>「腱の疾患、神経筋疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腱の疾患、神経筋疾患について理解する。 <p>「上肢・上肢帯の疾患、脊椎・脊髄の疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代謝性骨疾患、上肢・上肢帯の疾患、脊椎・脊髄の疾患について理解する。 	<p>「腱の炎症性疾患、脳性麻痺、絞扼性神経障害」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。 <p>「胸郭出口症候群、肩関節周囲炎、神経根症・脊髄症、脊柱靭帯骨化症、椎間板ヘルニア」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。
15	通年	<p>「脊椎・脊髄の疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脊椎・脊髄の疾患について理解する。 <p>「下肢・下肢帯の疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下肢・下肢帯の疾患について理解する。 	<p>「脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、二分脊椎、脊柱側弯症、脊髄腫瘍」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。 <p>「骨端症、ペルテス病、大腿骨頭壊死、大腿骨頭すべり症、扁平足」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。

矢崎 進

16	通年	科目試験(60分)		教員
成績評価方法	(木村)筆記試験 50% (矢崎) 50%			
準備学習など	予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。			
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病態治療学V 腎・泌尿器 自己免疫
担当者	福田 道雄 福田 直行 齋藤 研
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。</p> <p>ここでは腎泌尿器系及び自己免疫疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「腎臓の使命」 ・腎臓の構造を理解する。	「原子の海」 ・腎の使命は血清Naの維持であることを理解する。 「ネフロン構造」 ・糸球体や尿細管の各部名称を図示できる。	福田 道雄
2	通年	「腎臓のNa調節」 ・尿細管Na再吸収に関わるホルモンを理解する。	「レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系」 ・脱水時に分泌されるホルモンや分泌臓器の名称を図示できる。	
3	通年	「蛋白尿と血尿」 ・蛋白尿や血尿の検査法や病的意義を理解する。	「テストープの欠点」 ・テストープ尿蛋白は濃度にすぎず意義が小さいと知っている。 「糸球体由来血尿」 ・腎炎の血尿と泌尿器科的血尿を区別できる。	
4	通年	「糸球体疾患総論」 ・糸球体疾患の病理と臨床を関連付ける。	「腎病理」 ・蛋白尿のみを呈する疾患と血尿や腎機能低下を来す疾患の区別ができる。 「腎生検」 ・腎生検の流れを述べるができる。 「臨床分類」 ・腎疾患の臨床分類を列記・説明できる。	
5	通年	「糸球体疾患各論」 ・代表的な糸球体疾患を理解する。	「急性腎炎」「慢性腎炎」「ネフローゼ」 ・それぞれの代表的疾患を挙げて説明できる。	
6	通年	「全身性疾患に伴う糸球体疾患」 ・代表的な疾患を理解する。	「糖尿病」「全身性エリテマトーデス」 ・それぞれの代表的疾患を挙げて説明できる。他	

7	通年	「腎不全」 ・急性腎不全や慢性腎不全の分類を理解する。	「急性腎不全」 ・腎前性・腎性・腎後性腎不全を区別できる。 「慢性腎不全」 ・慢性腎不全で生じる貧血・Ca代謝異常について説明できる。 「透析」 ・血液透析・腹膜透析・移植について比較説明できる。	福田道雄
8	通年	「尿路の結石・感染症」 ・尿路結石や感染症の分類や症状を理解する。	「尿路結石」 ・症状・診断・治療について説明できる。 「尿路感染」 ・女性に多く、グラム陰性桿菌によることが多いと述べるができる。	福田直行
9	通年	「尿路・性器腫瘍」 ・主な手術及び術後看護を理解できる。	「腎癌」「膀胱癌」「前立腺肥大」「前立腺癌」 ・診断・治療及びその際の看護を説明できる。	
10	通年	「排尿異常」「男性不妊」「先天異常」 ・排尿異常の分類や治療を説明できる。	「下部尿路機能障害」 ・畜尿・排尿の仕組みと障害を分類・説明できる。	
11	通年	免疫機能の疾病(1) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する。	・膠原病の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	齋藤 研
12	通年	免疫機能の疾病(2) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する。	・関節リウマチの病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。 ・多発筋炎。皮膚筋炎、ベーチェット病、血管炎症候群の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
13	通年	免疫機能の疾病(3) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する。	・全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
14	通年	免疫機能の疾病(4) ・免疫機能の疾病の病態と症状、診断、治療を理解する。	・シュレーゲン症候群、全身性強皮症の病態生理、特徴的な症状と経過、診断・治療方法が説明できる。	
15	通年	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法		(福田 道・福田 直)筆記試験 65% (齋藤) 35%		
準備学習など		予定されている授業内容について教科書を読んでおくこと。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病態治療学VI 感覚器(眼・皮膚・耳・歯科口腔) 血液
担当者	小足 有紀 加藤 香澄 柴田 康子 野村 尚輝 菅 榮
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学15 歯科・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学14 耳鼻咽喉 系統看護学講座 専門分野(成人) 成人看護学4 血液・造血器

授業概要と目的
<p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>病態治療学では、形態機能学、病理学を基盤に看護を学ぶために必要な病気について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする内容を学習する。</p> <p>ここでは感覚器系(眼・皮膚・耳)および歯科口腔の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学修し、専門科目で学ぶ看護の基盤とする。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	眼の構造と機能 眼科における検査と治療	<ul style="list-style-type: none"> 眼の構造と機能を説明することができる。 眼科における代表的な検査と治療を説明できる。 	小足 有紀
2	後期	「視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離網膜症)」	・成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
3	後期	「視覚障害(加齢黄斑変性、糖尿病性網膜症など)、色覚異常、結膜の疾患」	・成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
4	後期	「皮膚の構造と機能」「発疹の性状」 ・皮膚の病態を理解するために正常皮膚の構造と機能を理解する。 ・疾患を理解するために必要となる発疹の性状を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚の構造を説明する。皮膚に存在する細胞とその機能を説明する。 代表的な発疹を表現する用語を覚える。 特徴的な皮膚病変の症状を説明する。 	加藤 香澄
5	後期	「各疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過1 表在性皮膚疾患(湿疹、アトピー性皮膚炎など)、感染症(带状疱疹、疥癬、蜂窩織炎)など」 ・皮膚科領域でよくある疾患を理解し、それに対する看護を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> アトピー性皮膚炎の合併症を説明する。外用療法とそれに用いる外用剤(軟膏、クリーム、副腎皮質ステロイドなど)の正しい外用方法を説明する。そして実践する。 一般的な急性期の皮膚感染症について学び、全身状態に合わせたケアの方法を述べる。 	
6	後期	「各疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過2 物理化学的刺激(熱傷など)と創傷全般(皮膚潰瘍、褥瘡)」 ・褥瘡や皮膚潰瘍などの傷をみてその深さや状態を評価する。	・褥瘡、皮膚潰瘍、熱傷など、傷の適切な洗浄の仕方を説明する。最も優先される処置を選択する。	

7	後期	・耳について解剖・機能・疾患を理解する。 ・鼻について解剖・機能・疾患を理解する。	・代表的な耳の疾患について何も見ずに説明できる。 ・代表的な鼻の疾患について何も見ずに説明できる。	柴田 康子
8	後期	・咽頭・喉頭について解剖・機能・疾患を理解する。	・代表的な咽頭・喉頭の疾患について何も見ずに説明できる。	
9	後期	・耳鼻咽喉科で行われる検査・処置を理解する。	・代表的な検査結果が理解できる。	
10	後期	・歯科・口腔系の構造と機能を理解する。	・歯科・口腔系の構造と機能を理解する。	野村 尚輝
11	後期	・各疾病の成り立ちと病態を理解する。	・各疾病の成り立ちと病態を理解する。	
12	後期	・各疾病の症状、検査、治療を理解する。	・各疾病の症状、検査、治療を理解する。	
13	後期	血液の疾患(1) 「赤血球系の異常、白血球系の異常」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	菅 榮
14	後期	血液の疾患(2) 「造血器腫瘍」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
15	後期	血液の疾患(3) 「出血性疾患」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
16	後期	科目試験(60分)		教員
成績評価方法		(小足)筆記試験 20% (加藤)20% (柴田)20% (野村)20% (菅)20%		
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病理学
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	プリント資料を配布

<p>授業概要と目的</p> <p>病理学の意義およびその総論的知識の習得する。 病理学を通じて疾病の本質を理解する。</p> <p>医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	・疾患を理解する。	・疾患の原因を説明できる。 ・先天異常について説明できる。 ・疾患の急性と慢性を説明できる。 ・予防医学について説明できる。	益田 健史
2	前期	・細胞障害を理解する。	・進行性病変を説明できる。 ・壊死・アポトーシス・萎縮・変性を説明できる。 ・進行性病変を説明できる。 ・再生・肥大・過形成・化生を説明できる。	
3	前期	・炎症を理解する。	・炎症とは何かを説明できる。 ・炎症のメカニズムを説明できる。 ・炎症の主要徴候を列挙できる。 ・炎症の分類を列挙できる。	
4	前期	・感染を理解する。	・感染症を説明できる。 ・予防接種・免疫を説明できる。	
5	前期	・循環障害を理解する。	・循環の基礎知識・局所循環障害を説明できる。 ・虚血・うっ血・充血・血栓・塞栓・梗塞を説明できる。 ・全身の循環障害を説明できる。 ・浮腫・高血圧症を説明できる。	
6	前期	・腫瘍について理解する。	・腫瘍の定義を説明できる。 ・腫瘍の原因を説明できる。 ・小児の腫瘍について説明できる。	
7	前期	・代謝障害について理解する。 ・死について理解する。	・代謝について説明できる。 ・代謝障害を説明できる。 ・死の徴候を説明できる。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験 100%			
準備学習など	配布資料の復習と医学への理解を深めること。			
留意事項				

学科・学年	看護科 1年次
科目名	感染症学
担当者	岡本 陽
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復と促進④ 医学書院

授業概要と目的

微生物の特徴・人体に及ぼす影響と免疫に関する基礎的知識を身につけるとともに、病原体に関する知識と感染症の特徴的な様式、病原性、発生・伝播、及びその疾病の予防・治療との関連を学び、感染防止について理解する。
 医師として資格のある教員が、医学の知識を活かして講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「微生物学総論」 ・医療分野で必要とされる微生物の生物学的特徴、種類を理解する。	「微生物の構造と機能」 ・微生物の種類と構造の違いや共通点を説明できる。	岡本 陽
2	前期	「滅菌と消毒」 ・医療分野で用いられる滅菌法、消毒法を理解する。	「滅菌法、消毒法、消毒薬について」 ・主な滅菌法、消毒法、消毒薬を挙げ、その特性を踏まえて状況に応じた適切な方法を選択することができる。	
3	前期	「化学療法」 ・抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の種類と作用メカニズムを理解する。	「化学療法薬の種類、特徴、作用機序」 ・感染症の治療に用いられる薬剤の種類を挙げ、その特徴と作用メカニズムを説明することができる。	
4	前期	「免疫1・自然免疫」 ・食食と炎症を中心とした自然免疫について理解する。	「自然免疫の種類、食食のしくみ、炎症」 ・自然免疫の具体例を挙げて説明することができる。 ・食食による異物排除の仕組みを説明することができる。 ・炎症反応による異物排除を説明できる。	
5	前期	「免疫2・獲得免疫」 ・T細胞とB細胞を中心とした獲得免疫について理解する。	「抗体産生、免疫記憶、二次応答」 ・抗体が産生される仕組みを説明できる。 ・免疫記憶を説明できる。 ・二次応答の仕組みを説明し、ワクチンの作用メカニズムを説明することができる。	
6	前期	「細菌の呼吸器感染症」 ・ワクチンが運用されているものを中心に、細菌を病原体とする呼吸器感染症について理解する。	「結核、ジフテリア症、百日咳、マイコプラズマ肺炎、髄膜炎(肺炎球菌、ヒブ、髄膜炎菌)など」 ・細菌を病原体とする感染症の特徴、予防法、診断法、治療法を説明できる。	
7	前期	「ウイルスの呼吸器感染症」 ・ワクチンが運用されているものを中心に、ウイルスを病原体とする呼吸器感染症について理解する。	「インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘・帯状疱疹、コロナウイルス感染症」 ・ウイルスを病原体とする感染症の特徴、予防法、診断法、治療法を説明できる。	
8	前期	「消化器感染症」 ・食中毒を中心とした消化器感染症について理解する。	「毒素型食中毒・感染型食中毒」 ・微生物を原因とする食中毒をはじめ、重要な消化器感染症の特徴、症状、予防法について説明できる。	

9	前期	「接触感染」 ・接触感染や糞口感染で感染する病原体について理解する。	「ブドウ球菌、レンサ球菌、皮膚糸状菌真菌感染症」 ・グラム陽性球菌による多様な感染症、および皮膚糸状菌による表在性真菌症の症状、特徴について説明できる。	岡本 陽
10	前期	「血液感染・日和見感染」 ・血液を介した感染症、また内因性の日和見感染について理解する。	「B型肝炎、C型肝炎、HIV、および真菌を中心とした日和見感染」 ・HBV、HCV、HIV、および深在性真菌症と深部皮膚真菌症の症状、特徴について説明できる。	
11	前期	「性感染症」 ・性行為を介した感染症について理解する。	「淋菌、性器クラミジア、ヘルペス、HPV」 ・性感染症の特徴、症状、治療法、予防法について説明できる。	
12	前期	「人獣共通感染症・創傷感染」 ・ヒト以外の動物を介した感染症、器物や環境に由来する感染症について理解する。	「破傷風、レジオネラ肺炎、日本脳炎、マラリア、SFTS、エキノコックスなど」 ヒト以外の動物を媒介する人獣共通感染症や、環境に由来する感染症を挙げ、その特徴や症状について説明できる。	
13	前期	「感染症総論」 ・各論をふまえ、特に医療分野に関連した感染症を予防するための考え方について理解する。	「スタンダードプリコーション、感染経路別予防策」 ・感染症の特徴をふまえ、スタンダードプリコーションや感染経路別予防策について感染防御の観点から説明することができる。	
14	前期	「感染症の関連法規」 ・医療分野に必要な感染症に関連した法規について理解する。	「感染症法、学校保健安全法、病原体管理規制、労働安全衛生法、家畜伝染病予防法」 ・医療分野に必要な感染症に関連した法規について、感染症の特性をふまえて説明することができる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験 74% 小レポート26%、		
準備学習など		2-14回に事前学習を課すので、これをふまえて教科書等で学習しておくこと。		
留意事項		Teamsを使用する場合がある。		

学科・学年	看護科 1年次
科目名	臨床薬理学
担当者	池田 義明
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 医学書院

授業概要と目的

人体への薬物の働きかけや薬物に対する生体側の反応など、薬物治療に関する基礎的知識を学ぶ。

薬剤師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	・薬理学の概要を理解する。	・医薬品の定義を説明することができる。 ・薬物療法における看護師の役割を具体的に述べる ことができる。	池田 義明
2	通年	・薬理学の基礎知識を理解する。	・薬物受容体の働きを説明することができる。 ・酵素の働きと特徴を説明することができる。 ・薬物の吸収から排泄までの動態を具体的に述べる ことができる。	
3	通年	・薬理学の基礎知識を理解する。	・薬物相互作用の機序を具体的に述べる ことができる。 ・医薬品と法律を関連付けることができる。	
4	通年	・感染症治療薬の作用を理解する。	・抗菌薬の種類を列挙することができる。 ・抗菌薬の作用を説明することができる。 ・抗菌薬の副作用を列挙することができる。 ・抗真菌薬の作用を説明することができる。 ・抗ウイルス薬の作用を説明することができる。	
5	通年	・がん治療薬・免疫抑制薬の作用を 理解する。	・抗がん薬の種類を列挙することができる。 ・抗がん薬の作用を説明することができる。 ・抗がん薬の副作用を列挙することができる。 ・免疫系の働きと特徴を説明することができる。 ・免疫抑制薬の作用を説明することができる。 ・免疫抑制薬の副作用を列挙することができる。	
6	通年	・抗アレルギー・抗炎症薬の作用を 理解する。	・炎症の定義を説明することができる。 ・抗炎症薬の種類を列挙することができる。 ・抗炎症薬の作用を説明することができる。 ・抗炎症薬の副作用を列挙することができる。 ・リウマチ薬の作用を説明することができる。	
7	通年	・末梢神経系作用薬の作用を 理解する。	・自律神経系の働きを説明することができる。 ・筋弛緩薬の作用を説明することができる。 ・局所麻酔薬の作用を説明することができる。	
8	通年	・中枢神経系作用薬の作用を 理解する。	・中枢神経系の働きを説明することができる。 ・全身麻酔薬の作用を説明することができる。 ・睡眠薬・抗不安薬の作用を説明 することができる。 ・睡眠薬・抗不安薬の副作用を 列挙することができる。	

9	通年	・中枢神経系作用薬の作用を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・抗精神病薬の種類を列挙することができる。 ・抗精神病薬の作用を説明することができる。 ・抗精神病薬の副作用を列挙することができる。 ・抗うつ薬・気分安定薬の作用を説明することができる。 ・抗パーキンソン病薬の作用を説明することができる。 ・抗パーキンソン病薬の副作用を列挙することができる。 ・抗てんかん薬の作用を説明することができる。 ・抗てんかん薬の副作用を列挙することができる。 ・麻薬性鎮痛薬の作用を説明することができる。 ・麻薬性鎮痛薬の副作用を列挙することができる。 	池田 義明
10	通年	・循環器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・降圧薬の種類を列挙することができる。 ・降圧薬の作用を説明することができる。 ・降圧薬の副作用を列挙することができる。 ・狭心症治療薬の作用を説明することができる。 ・狭心症治療薬の副作用を列挙することができる。 ・心不全治療薬の作用を説明することができる。 ・心不全治療薬の副作用を列挙することができる。 	
11	通年	・循環器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・抗不整脈薬の種類を列挙することができる。 ・抗不整脈薬の作用を説明することができる。 ・利尿薬の種類を列挙することができる。 ・利尿薬の作用を説明することができる。 ・血液凝固系の働きを説明することができる。 ・血液作用薬の作用を説明することができる。 ・血液作用薬の副作用を列挙することができる。 	
12	通年	・呼吸・消化器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・気管支ぜんそく治療薬の種類を列挙することができる。 ・気管支ぜんそく治療薬の作用を説明することができる。 ・消化性潰瘍治療薬の種類を列挙することができる。 ・消化性潰瘍治療薬の作用を説明することができる。 	
13	通年	・消化器・生殖器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・下剤の種類を列挙することができる。 ・下剤の作用を説明することができる。 ・女性生殖器系薬の作用を説明することができる。 ・女性生殖器系薬の副作用を列挙することができる。 ・男性生殖器系薬の作用を説明することができる。 ・男性生殖器系薬の副作用を列挙することができる。 	
14	通年	・物質代謝作用薬・皮膚科用薬・眼科用薬・救急時の使用薬について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンの働きと特徴を説明することができる。 ・糖尿病治療薬の種類を列挙することができる。 ・糖尿病治療薬の作用を説明することができる。 ・糖尿病治療薬の副作用を列挙することができる。 ・骨粗鬆症治療の種類を列挙することができる。 ・骨粗鬆症治療薬の作用を説明することができる。 ・救急時に用いる薬剤の種類を列挙することができる。 ・救急時に用いる薬剤の作用を説明することができる。 ・輸液製剤の種類を列挙することができる。 	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験80%、授業態度20%(特に私語は減点する)		
準備学習など		事前に教科書を読んでおくこと。		
留意事項		復習は必ず行うこと。出席表に記載した質問は次回講義冒頭で解説する。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	医療総論
担当者	岩田 宏
単位数(時間数)	1単位(15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院

授業概要と目的

我が国の医療の歩みを知るとともに現代医療の現状と展望を学習し、これからの医療・看護に求められる看護専門職者としての知識を深める。
 医師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・医療の歩みと医療観の変化を知る 第2章	・我が国の医療の歩みを述べる。 ・時代の変化による医療観の移りかわりを述べる。 ・これからの医療観について考える。	岩田 宏
2	前期	・私たちの生活と医療のしくみを知る 第3章	・病気やけがをしたときの医療の流れを述べる。 ・私たちの生活と保健・福祉のしくみを概要述べる。	
3	前期	・現代医療の最前線を知る 第4章	・がん診療とその最前線を述べる。 ・移植医療とその最前線を述べる。 ・人工臓器の開発について述べる。	
4	前期		・再生医療とその最前線を述べる。 ・体外受精と出世以前診断について述べる。 ・画像診断とその最前線を述べる。 ・画像診断装置の進歩について述べる。	
5	前期	・現代医療の課題第5章	・医療による有害事象について述べる。 ・医原病という考え方について述べる。 ・先端医療がもたらした倫理上の課題について述べる。 ・倫理上のジレンマについて考える。	
6	前期	・医療を見つめなおす新しい視点 第6章、第7章	・臨床疫学—医療における合理的判断について述べる。 ・安全な医療の提供のためにどんなしくみが必要かを考える	
7	前期		・情報化社会により今後の医療はどのように変わっていくかを述べる ・これからの先端医療技術開発とその課題を述べる	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験 100%			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	看護学概論
担当者	佐藤直美
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	基礎看護学講座 看護学概論 医学書院 ナイチンゲールの『看護覚え書』 西東社 誰でもわかる看護理論 サイオ出版

授業概要と目的

初めて看護を学ぶ学生への導入として看護の構成要素である人間・健康・環境・看護・暮らしについて考える機会を設定し多様なとらえ方があることを認識できることを目的とする。また自分の考えを論理的に他者に説明できるための基礎知識を持ち今後学んでいく授業・実習の基礎となる科目として位置づける。看護師として必要不可欠な看護倫理を事例を通し学ぶことでその重要性を認識できる科目とする。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	1看護とは何かを知ることができる	1看護の概念 1)看護概論を学ぶ意味を知ることができる 2)看護を構成する基本的な4大概念とは何かを知ることができる 3)看護とは考えることができる	佐藤直美
2	前期	1看護とは何かを知ることができる 2 看護の歴史的変遷を知ることができる	1看護の概念 1)看護の歴史的変遷を知ることができる	
3	前期	1先駆者の看護の考え方を知ることができる	1看護の概念 1)看護理論とはを理解することができる 2)先駆者の看護理論の特徴を述べることができる	
4	前期	1先駆者の看護の考え方を知ることができる	1看護の概念 1)先駆者の看護理論の特徴を述べることができる	
5	前期	1先駆者の看護の考え方を知ることができる	1看護の概念 1)先駆者の看護理論の特徴を述べることができる	
6	前期	1先駆者の看護の考え方を知ることができる	1看護の概念 1)先駆者の看護理論の特徴を述べることができる	
7	前期	1看護を構成する5大概念「人間」を理解することができる	1人間とは 1)統合体としての人間を理解することができる 2)発達段階から見た人間を理解することができる	
8	前期	1看護を構成する5大概念「健康」について理解することができる	1健康とは 1)生活と健康の関係について知ることができる 2)健康レベルと看護の関係について知ることができる 3)健康の指標について知ることができる	

9	前期	1看護を構成する5大概念「環境」を理解することができる	1環境とは 1)環境と人間の相互作用について知ることができる 2)環境と健康の相互作用について知ることができる	佐藤直美	
10	前期	1看護を構成する5大概念「看護」「暮らし」を理解することができる	1看護とは 1)人の暮らしについて知ることができる 1)自分の看護観を明確にする		
11	前期	1看護師の役割を理解する 2保健医療福祉チームの中での看護師の役割を理解する	1看護活動展開の場と看護の機能 1)看護師の役割を理解することができる 2)保健医療福祉チームの仲介と調整について理解することができる		
12	前期	1保健医療福祉チームの中での看護師の役割を理解する 2現代の保健医療福祉活動における看護の特徴を理解する	1看護活動展開の場と看護の機能 1)保健医療福祉チームの仲介と調整について理解することができる 2)現代の保健医療福祉活動における看護の特徴について理解することができる		
13	前期	1倫理について理解する 2看護倫理について理解する	1看護倫理 1)倫理とは何か述べることができる 2)看護倫理とは何か述べることができる		
14	前期	1看護師に必要な倫理について理解する 2看護の場で生じやすい倫理上の問題について理解する	1看護倫理 1)看護師に必要な倫理を理解することができる 2)発生しやすい倫理上の問題を知ることができる		
15	前期	1)授業総括 2)科目試験			
成績評価方法		筆記試験 20% レポート課題 80%			
準備学習など					
留意事項					

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術Ⅰ コミュニケーション
担当者	菊井 友
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術 中央法規

授業概要と目的

看護の基盤となる人間関係に大きく影響を及ぼし、対象を支えるために欠かすことのできないコミュニケーションの基礎的知識・技術・態度を習得する。また、その場での気づきを顕在化した効果的なコミュニケーションについて学ぶ。看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	看護におけるコミュニケーションの考え方を理解する	コミュニケーションの意味を知る 看護・医療におけるコミュニケーションの目的が説明できる 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる	菊井 友
2	前期	コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解する	コミュニケーションの構成要素が説明できる ミスコミュニケーションを避ける方法が説明できる	
3	前期	関係構築のためのコミュニケーションの基本を理解する	看護・医療におけるコミュニケーションの基本的な態度がわかる 人間関係構築のためのポイントがわかる	
4	前期	効果的なコミュニケーションあり方を理解する	傾聴の技術を体験する 情報収集の技術を体験する	
5	前期	看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力のポイントを理解する	プロセスレコードの書き方がわかる コミュニケーションに必要な基本的な態度がわかる	
6	前期	コミュニケーションに障害がある場合の方法を理解する	コミュニケーション障害がある対象へのかかわり方が説明できる。	
7	前期	自己のコミュニケーション課題に気づく	自己の傾向を知り、コミュニケーションの課題を考える	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	レポート等 50点(リフレクションペーパー・プロセスレコード・演習・自己の課題) 筆記試験 50点			
準備学習など	事前学習の指示がある場合は講義の開始までに準備を整えておきましょう。事前の準備が不十分の場合は講義の理解が難しくなる場合があります。			
留意事項	この科目は看護実践を行う上で基礎となる科目です。積極的に学ぶ姿勢で受講してください。コミュニケーションを手段として、相互の発するメッセージの意味や感情の理解を深め、相互に信頼できる関係性を築いていきましょう。			

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術Ⅱ 安全・環境
担当者	高橋 千恵子、新家 陽子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・校内実習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア

授業概要と目的
すべての看護技術に共通する技術として、対象を多方面から支える看護を実践するための核となる「安全」「感染予防」「環境調整」の基本的知識・技術・態度について習得する。そして看護をとどける看護師としての役割と責務を理解し、対象への安全の確保とともに気づきの顕在化や自分の身を守るための視点と実践方法を学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」	「授業内容」	担当者
		一般目標(GIO)	到達目標(SBOs)	
1	前期	看護技術へのとびら 看護技術を学ぶ意義を知る。	(1)看護技術を学ぶにあたって ①看護技術を学ぶ意義を述べる。 ②看護技術を身につけるためにどのように学ぶかを考える。	高橋 千恵子
2	前期	看護における安全(1) 1. 看護における安全の意義と取り組みを知る。 2. 看護における安全を守る方法を知る。 3. 療養生活の場としての環境調整に必要な知識を理解する。	(2)看護における安全 ①看護における安全の意義と医療場面での危険因子を述べる。 ②ヒューマンエラーの特性を述べる。 ③事故防止への取り組みを述べる。 ④インシデント・アクシデント報告の意義を述べる。 (2)看護における安全を守る方法 ①KYTから療養生活の安全に気づく。	
3	前期	安全を守る技術(1) 1. 安全な看護における感染予防に必要な基本的知識を理解する	(1)感染予防に必要な基本的知識 ①感染の定義、意義を述べる。 ②感染予防に必要な用語について述べる。 ③感染成立の要件、成立過程を述べる。 ④感染予防の3原則を列挙する。 ⑤標準予防策(スタンダードプリコーション)について説明する。	新家 陽子
4	前期	安全を守る技術(2) 2. 感染予防の実際を理解する。 3. 感染予防における看護師の役割と責務について理解する。	(2) 感染予防の実際 ①感染経別予防策を述べる。 ②防護用具について説明する。 ③洗浄・滅菌、消毒の説明をする。 ④滅菌物の取り扱いについて説明する。 (1) 感染管理組織体制 ①感染対策チーム(ICT)について述べる。 (2) リンクナース ①リンクナースの役割を述べる。	
5	前期	安全を守る技術(3) 4. 看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	(1) 感染予防の技術(校内実習) ①衛生的手洗いができる。 ・スクラブ法 ・ラビング法 ②医療廃棄物の取り扱いができる。	高橋 千恵子

6	前期	安全を守る技術(4) 5.看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	(1)感染予防の技術(校内実習) ③防護用具の着脱ができる。 ・マスク ・手袋 ・プラスチックエプロン ・ゴーグル ・キャップ	高橋 千恵子
7	前期	環境調整の技術(1) 1.看護における環境調整の基本的技術を習得する。	(1)環境調整の基本的技術 ①寝心地の良いベッドメイキングについて考えることができる。 ②グループで協力し技術習得に臨む。	
8	前期	環境調整の技術(2) 2. ボディメカニクスの基本的な考え方を理解する。	(2)環境調整の援助 ①病床・環境整備を実施する。 ②ベッドメイキングに取り組む。	
9	前期	環境調整の技術(3) 3.看護における環境調整の基本的看護技術を習得する。	(3)環境調整の実際(校内実習) ①ベッドメイキングができる。 ②ボディメカニクスを活用できる。	
10	前期	環境調整の技術(4) 3.看護における環境調整の基本的看護技術を習得する。	(4)環境調整の実際(校内実習) ③ 臥床患者のシーツ交換ができる。	
11	前期	環境調整の技術(5) 3.看護における環境調整の基本的看護技術を習得する。	(4)環境調整の実際(校内実習) ④環境調整する上でのアセスメントの視点の意見交換をする。(演習) ⑤療養環境の整備ができる。	
12	前期	安全を守る技術(5) 5.看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	(1)感染予防の技術(校内実習) ④無菌操作ができる。 ・鑷子の取り出し ・綿球の取り出しと受け渡し	
13	前期	安全を守る技術(6) 5.看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	(1)感染予防の技術(校内実習) ⑤滅菌物の取り扱いができる。 ・滅菌包の開け方 ・滅菌手袋の装着と外し方 (2)防護用具の必要度、着脱の順序を考える	
14	前期	技術試験	臥床患者のシーツ交換	
15	前期	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法	筆記試験 70% 小テスト・リフレクション等 15% 技術テスト(リフレクション含む)15%			
準備学習など	この科目は、看護を学ぶうえで基礎となる科目です。予習・復習を主体的に行い、自ら学ぶ姿勢で受講してください。また、看護技術の習得には、技術の錬磨が必要です。クラスメートと協同して技術習得に臨みましょう。看護の対象が安心できる療養環境で安全な医療を受けることができるためには、日頃から保健・医療・福祉の報道やニュースに関心をもつなど、自らの問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			
留意事項	*シーツ交換、ベッドメイキングについて技術のオフィスアワー時間を設けます。 (日程は、チームズで連絡) 疑問や解決時間に活用してください。			

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術Ⅲ フィジカルアセスメント
担当者	野村 あすか
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえるvol3. フィジカルアセスメント メディックメディア

<p>授業概要と目的</p> <p>看護において、患者を正しく「診る」ことが重要である。そのためには正しい知識と技術、判断力を持ち、自主的に援助・支援をおこなうことが求められる。患者の生命や安全を守り、ケアの質を高めるためには、より高い診断力を持つことが必要となる。この科目ではバイタルサインをはじめ、身体所見を観察する、患者をみる、患者から聴く、患者に触れるといった視診・聴診・触診などの技術を習得し、得られた情報を基に身体の状態をアセスメントする方法を学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「ヘルスアセスメント」 「健康歴とセルフケア能力」 「全体の概観」 ・看護における観察の意義を理解する。 ・フィジカルアセスメントに必要な技術を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの概念について述べるができる。 ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性について述べるができる。 セルフケア能力の観察の視点について述べるができる。 フィジカルアセスメントに必要な技術の目的、方法、留意点について述べるができる。 全身状態、全体印象の把握の視点が説明できる。 身体計測の目的、方法、留意事項を述べる。 身体計測を性格に実施できる。 	野村 あすか
2	前期	「バイタルサイン」 ・バイタルサインの観察とアセスメントの視点を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> バイタルサインの目的、方法、留意点、アセスメントの視点が説明できる。 バイタルサインの測定値の正常、測定値に影響を与える要因が説明できる。 	
3	前期	「バイタルサイン」 ・バイタルサイン測定の手技を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> バイタルサイン測定を正確に実施できる。 技術の根拠が説明できる。 測定値をアセスメントできる。 	
4	前期	「呼吸器系のフィジカルアセスメント」 ・胸部・呼吸器系の観察とアセスメントが理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系の機能と構造を説明できる。 問診、視診、触診、聴診、打診の留意点と方法を述べるができる。 	
5	前期	「呼吸器系のフィジカルアセスメント」 ・胸部・呼吸器系の観察とアセスメントができる。	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系の観察(問診、視診、触診、聴診、打診)とアセスメントができる。 	
6	前期	「循環器系のフィジカルアセスメント」 ・循環器系の観察とアセスメントが理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 循環器系の機能と構造を説明できる。 問診、視診、触診、聴診、打診の留意点と方法を述べるができる。 	
7	前期	「循環器系のフィジカルアセスメント」 ・循環器系の観察とアセスメントができる。	<ul style="list-style-type: none"> 循環器系の観察(問診、視診、触診、聴診、打診)とアセスメントができる。 	

8	前期	「腹部のフィジカルアセスメント」 ・腹部の観察とフィジカルアセスメントが理解できる	・腹部の機能と構造を説明できる。 ・問診、視診、触診、聴診、打診の留意点と方法を述べるができる。	野村 あすか	
9	前期	「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」 ・筋・骨格、頭頸部、感覚器の観察とアセスメントが理解できる。	・筋・骨格系の機能と構造を説明できる。 ・問診、視診、触診、聴診、打診の留意点と方法を述べるができる。		
10	前期	「技術試験」 臥床患者の血圧測定を習得する。	・臥床患者の血圧測定が実施できる。		
11	前期	「神経系のフィジカルアセスメント」 ・意識の評価、神経系の観察とアセスメントが理解できる	・神経系の機能と構造を説明できる。 ・問診、視診、触診、聴診、打診の留意点と方法を述べるができる。		
12	前期	「乳房・腋窩のフィジカルアセスメント」 ・乳房・腋窩の観察とアセスメントが理解できる	・乳房・腋窩の機能と構造を説明できる。 ・問診、視診、触診、聴診、打診の留意点と方法を述べるができる。		
13	前期	「筋・骨格系」「神経系」「腹部」の観察とアセスメントができる	・筋・骨格系、神経系、腹部の観察(問診、視診、触診、聴診、打診)とアセスメントができる。		
14	前期	心理・社会状態の観察とアセスメントが理解できる。	・心理、社会的アセスメントの意義を述べるができる。 ・心理、社会面が与える影響を説明できる。		
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)			
成績評価方法		筆記試験(60%) 技術試験(20%) レポート課題(20%)			
準備学習など		1. 予習・復習を行う 2. 授業後、疑問点を整理し解決する 3. 事前に演習に取り組む準備とセルフトレーニングを行う 4. 視聴覚教材による自己学習を行う			
留意事項		この科目は看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。看護をするうえで観察は重要なスキルとなります。解剖生理を含め、予習・復習を行い積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、技術習得のため技術練習を行いましょう。			

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術Ⅳ 食事
担当者	前田 章子 鈴木 那知子
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護が見える vol.1 基礎床看護技術 メディックメディア

授業概要と目的

食事は、人間の基本的ニーズの一つであり対象を支えるための大きな要因となる。対象の日常生活に必要な食事・栄養の意義を理解し、健康の維持・生命の維持・暮らしの質の向上のために不可欠な食事の援助技術について科学的根拠をふまえながら食事の基礎的知識・技術・態度を習得する。また、暮らしの中から快適な食事に必要な観察内容や食事援助に結びつく気づきを顕在化させ、効果的な食事を支える援助技術を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	1.健康生活における食事の意義を理解する。 2.栄養状態及び食欲・食に対する認識のアセスメントを理解する。 3.食欲・消化・吸収のしくみを理解する。	1)食事の生理的・心理的・社会的意義を述べる。 2)栄養状態、水分・電解質バランス、食欲のアセスメントができる。(アセスメントツール活用) 3)食欲・消化・吸収のしくみを述べる。	前田 章子
2	後期	1. 摂食・嚥下の解剖学的構造とメカニズムを理解し、その能力のアセスメントを理解する。 2.医療施設で提供される食事を理解する。 3.食事の種類と形態を理解する。 4.食事介助の目的・適応、留意点・方法を述べる。 5.快適な食事援助の実際を理解する。 6.とろみ食の作成ができる。	1)摂食・嚥下の解剖学的構造を述べるができる。また、メカニズムを述べ、摂食行動のアセスメントができる。 2)医療施設で提供される食事の種類を述べる。 3)食事形態・種類、調整の必要性を述べる。 4)食事介助の目的・適応、留意点・方法を述べる。 5)快適な食事を目指した援助について述べる。 6)とろみ食の作成ができる。	
3	後期	1.経口的に食事摂取が困難な対象の栄養法の種類と解剖学的理解をする。 2.経鼻経管栄養法・胃瘻・中心静脈栄養法の目的・方法・留意点を理解する。	1)経口的に食事摂取が困難な対象の栄養法の種類と解剖を述べるができる。 2)経鼻経管栄養法・胃瘻・中心静脈栄養法の目的・方法・留意点を述べることができる。	
4	後期	1.口腔ケアの基礎を学ぶ ・口腔の構造と機能が理解できる。 ・口腔ケアの基本技術を理解する。	1)口腔内の構造と機能を述べる事ができる。 2)口腔ケアの効果を述べる事ができる。 3)口腔内の特徴を理解し、問題点を述べる事ができる。 4)安全な口腔ケアを考え述べる事ができる。	鈴木 那知子
5	後期	[校内演習] 1. 口腔ケアの基本技術を習得する。 ・要介護者、障害者に必要な口腔ケア方法を実習を通して理解する。	[校内演習] 1)対象に応じた口腔ケアの方法を選択できる。 2)吸引一体型の歯ブラシを使用し、含嗽できない場合の口腔ケアを実際に行い、留意点を述べる事ができる。	

6	後期	〔校内演習〕 1. 食事摂取介助の方法を習得する。 2. 経口的に食事摂取が困難な対象の栄養法を理解する。	〔校内演習〕 1)経口摂取可能な対象に応じた、快適な食事摂取介助の実施ができる。 2)安全・安楽な援助のためのポイントを述べる。 3)対象への適切な声かけができる。 4)食事摂取前・中・後の観察ができる。	前田 章子
7	後期	〔校内演習〕 1.経鼻経管栄養法について理解する。 2.胃瘻について理解する。 3.中心静脈栄養法について理解する。	〔校内演習〕 1)栄養法の種類を述べる 2)経管栄養法の目的・方法・留意点を述べる。 3)経管栄養剤の注入方法について述べる。 4)シミュレーターを使用し経鼻経管栄養法の実施ができる。 5)胃瘻の目的・方法・留意点を述べる。 6)中心静脈栄養法の目的・方法・留意点を述べる。	
8	後期	1)授業総括 2)科目試験(45分)	栄養アセスメント、摂食嚥下機能評価、食事介助の留意点、口腔ケアの留意点、非経口的栄養摂取方法の種類を理解し、記述することができる。	
成績評価方法		筆記試験 70% 演習・課題提出30%		
準備学習など		1. 授業の前後は予・復習を行う。 2. 授業後、疑問点を整理し解消する。 3. 事前に演習に取り組む準備(イメージトレーニング) 4. 視聴覚教材による自己学習		
留意事項		多くの体験と学習を積極的に取り組む。 課題の提出期限を守る。		

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術V 排泄
担当者	二宮 麻衣
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術II 医学書院 看護が見える vol.1 臨床看護技術 メディックメディア 看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

授業概要と目的

排泄行動は、生理的欲求の一つであり対象を支えるための大きな要因となる。疾患や治療の制限により排泄援助が必要となった対象は、羞恥心や遠慮、恐怖といった感情を抱くため、人間としての尊厳をまもり、QOLを維持する看護が必要となる。そのため、排泄の意義、排泄に影響を及ぼす要因、排泄器具の特徴について理解し、アセスメントする。また、その場の気づきを顕在化し安全・安楽に留意した排泄における基本的知識・技術・態度について習得する。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	<ul style="list-style-type: none"> 排泄の意義を理解する。 排泄器官の機能について理解する。 排泄のメカニズムを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 排泄の意義を説明できる。 排泄における看護師の基本的姿勢について説明できる。 排泄器官の機能を説明できる。 排泄のメカニズムを説明できる。 	二宮 麻衣
2	通年	<ul style="list-style-type: none"> 排泄のアセスメントに必要な情報について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 排泄状況、排尿、排便の把握に必要な情報を説明できる。 移動動作、心理、社会的状態のアセスメントができる。 	
3	通年	<ul style="list-style-type: none"> 自然排泄の援助方法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> トイレ・ポータブルトイレ排泄に必要な情報と観察項目、排泄援助を説明できる。 床上での便器・尿器・おむつ排泄に必要な情報と観察項目、援助を説明できる。 	
4	通年	<ul style="list-style-type: none"> 便器・尿器を使つての排泄援助の技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> トイレ・ポータブルトイレの排泄援助の実施ができる。 便器・尿器を使用した排泄援助の実施ができる。 必要な観察ができる。 羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けができる。 	
5	通年	<ul style="list-style-type: none"> 陰部洗浄の修得できる。 おむつによる排泄援助の技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 陰部洗浄の実施ができる。 おむつ交換の実施ができる。 必要な観察ができる。 羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けができる。 	
6	通年			
7	通年	<ul style="list-style-type: none"> 排泄障害への援助を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 排泄困難、尿閉、頻尿時の看護を説明できる。 便秘、下痢時の看護を説明できる。 便・尿失禁時の看護を説明できる。 	
8	通年	<ul style="list-style-type: none"> 一時的導尿の援助方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一時的導尿に必要な情報と観察項目、排泄援助を説明できる。 	
9	通年	<ul style="list-style-type: none"> 持続的導尿の援助方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続的導尿に必要な情報と観察項目、排泄援助を説明實際を説明できる。 	

10	通年	・導尿の援助技術を習得する。	1) 一時的導尿の留意点を踏まえ安全に実施できる。 2) 必要な観察ができる。 3) 羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けができる。	二宮 麻衣	
11	通年				
12	通年	・排便を促す援助方法を理解する。	1) 便秘改善の看護を説明できる。 2) 浣腸の必要な情報と観察項目、排泄援助を説明できる。		
13	通年	・グリセリン浣腸の援助技術を習得する。	1) グリセリン浣腸の留意点を踏まえ安全に実施できる。 2) 必要な観察ができる。 3) 羞恥心、プライバシーに配慮した声掛けができる。		
14	通年				
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)			
成績評価方法		筆記試験(90%) レポート(10%)			
準備学習など					
留意事項					

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術VI 活動・休息
担当者	前田 章子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 II 医学書院 看護が見えるvol.1 基礎看護技術

授業概要と目的
活動・休息を論理的、実践的に学び、対象の安全や心地よい暮らしを維持することを支えるための活動・休息の基礎的知識・技術・態度を習得する。また、その場での気づきを顕在化し、その人にとっての効果的な、活動・休息を支える技術を学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「活動・休息」を整えるための基礎知識について理解する。 ・活動量を学ぶ。 ・身体不活動の影響及び予防を学ぶ。	基本的活動の基礎知識として、 ・活動量を述べる。 ・身体不活動の影響及び予防を述べる。	前田 章子
2	前期	・安楽をもたらす身体ケアについて学ぶ。 ・タッチングやリラクゼーション法を学ぶ。	・安楽をもたらす身体ケアについて述べる。 ・タッチングやリラクゼーション法を述べる。	
3	前期	・体軸に対する関節の方向の名称を学ぶ。 ・体位の種類を学ぶ。 ・姿勢による生理的影響を学ぶ。	・体軸に対する関節の方向の名称を述べる。 ・体位の種類を述べる。 ・姿勢による生理的影響を述べる。	
4	前期	・良肢位の意味と基本肢位との違いを学ぶ。 ・ボディ・メカニクスの意味と原理を学ぶ。	・良肢位の意味と基本肢位との違いを述べる。 ・ボディメカニクスを述べる。	
5	前期	・体位変換の種類と原理原則、及び手技を学ぶ。 ・安楽なポジショニングを学ぶ。	・体位変換の種類を述べる。 ・体位変換の方法を述べる。 ・安楽なポジショニングを学ぶ。	
6	前期	「活動・休息」ことを整える援助技術を身につける〔校内実習〕 ・良肢位を学ぶ。 ・ボディ・メカニクスを学ぶ。 ・体位の種類を学ぶ。 ・体位変換の方法を学ぶ。	「感じる、動く、休むことを整える援助」〔校内実習〕 ・良肢位を学ぶ。 ・ボディ・メカニクスを実施する。 ・体位変換を実施する。 ・体位変換の方法を学ぶ。	
7	前期	〔校内実習〕 ・安楽なポジショニングを学ぶ。	〔校内実習〕 ・安楽なポジショニングの援助を実施する。	
8	前期	・ベッド上仰臥位での左右、上下移動方法を学ぶ。 ・仰臥位から長坐位、端坐位、立位への移乗援助方法を学ぶ。 ・車椅子の移乗を学ぶ。	・ベッド上仰臥位での上方移動、下方移動を実施する。 ・仰臥位から、長坐位、端坐位、立位への移動援助方法を実施する。 ・車椅子の移乗を述べる。	

9	前期	[校内実習] ・ベッド上仰臥位での左右、上下移動方法を学ぶ。 ・仰臥位から、長坐位、端坐位、立位への移動援助方法を学ぶ。	[校内実習] ・ベッド上仰臥位での上方移動、下方移動を実施する。 ・仰臥位から、長坐位、端坐位、立位への移動援助方法を実施する。	前田 章子
10	前期	[校内実習] ・ベッドから車椅子への移乗、車椅子からベッドへの移乗を学ぶ。 ・車椅子からトイレ、トイレから車椅子への移乗を学ぶ。	[校内実習] ・ベッドから車椅子への移乗、車椅子からベッドへの移乗を学ぶ。 ・車椅子からトイレ、トイレから車椅子への移乗を学ぶ。	
11	前期	・ストレッチャーへの移乗方法を学ぶ ・杖、歩行器、車椅子、リフトの種類と名称、留意点を学ぶ。	・ストレッチャーへの移乗方法を学ぶ。 ・杖、歩行器、車椅子、リフトの種類と名称、留意点を学ぶ。	
12	前期	[校内実習] ・ストレッチャーへの移乗、移送方法を学ぶ。	[校内実習] ・ストレッチャーへの移乗、移送方法を実施する。	
13	前期	[校内実習] ・車いすへの移乗後、移送援助を学ぶ。	[校内実習] ・車いすへの移乗後、移送援助を実施する。	
14	前期	・睡眠の種類、メカニズムを学ぶ。 ・睡眠のアセスメントと睡眠障害の種類を学ぶ。 ・休むことを整える援助方法を学ぶ。	・睡眠の種類、メカニズムを述べる。 ・睡眠のアセスメントと睡眠障害の種類を述べる。 ・休むことを整える援助方法を述べる。	
15	前期	授業総括 科目試験		
成績評価方法		筆記試験80点、技術(校内実習)課題20点の合計100点の評価とする。		
準備学習など		予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、アンテナを張り、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		
留意事項		この科目は、看護を実践する上で基盤となる大事な基礎科目です。 校内実習時間だけでは、実技の習得は難しいと考えて下さい。 実際に、患者さんへ安全で安楽な技術提供を行う事ができるようになる為、実習室にて何回も実技練習を行っていきましょう。		

学科・学年	看護科 1年次
科目名	基礎看護技術Ⅶ 清潔・衣生活
担当者	野村 あすか
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア

授業概要と目的

身体を清潔にすることは、皮膚の生理機能を円滑にするとともに、気分を爽快にして日常生活を過ごすことにつながる。この科目では、清潔・衣生活の基礎的知識・技術・態度を習得し、清潔援助が単に清潔を保つためだけでなく、その人の日常の暮らしかたに近い方法、あるいは最も好む方法で清潔援助を実施する。さらに、安全や心地よさだけでなく、その場での気づきを顕在化しその人らしさを支えるための援助技術を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「身なりを整える」 ・身なりを整える意義、目的を理解する。	・皮膚、粘膜の構造と機能を述べる。 ・身なりを整える目的を述べる。 ・身なりを整える援助の身体・心理・社会面への効果を述べる。 ・患者に適した清潔援助を考えることができる。	野村 あすか
2	通年	「寝衣交換」 ・寝衣交換の基本技術を理解する。	・実施前の評価ができる。 ・必要物品が準備できる。 ・患者への説明ができる。 ・寝衣交換の方法の根拠を述べる。 ・安全で心地よい寝衣交換について考えを述べることができる。	
3	通年	「寝衣交換」 ・患者の状態に応じた寝衣交換の基本技術を習得する。	・患者の状態に応じた寝衣交換の方法が選択できる。 ・安全で心地よい寝衣交換が実施できる。 ・実施前、中、後の評価ができる。	
4	通年	「全身清拭」「シャワー浴」 ・全身清拭の基本技術を理解する。 ・シャワー浴の基本技術を理解する。	・実施前の評価ができる。 ・必要物品が準備できる。 ・患者への説明ができる。 ・「全身清拭」「シャワー浴」の方法の根拠を述べる。 ・安全で心地よい「全身清拭」「シャワー浴」について考えを述べることができる。	
5	通年	「全身清拭」 ・患者の状態に応じた全身清拭の基本技術を習得する。	・患者の状態に応じた全身清拭、寝衣交換の方法が選択できる。 ・安全で心地よい全身清拭、寝衣交換を統合させ一連のながれで実施できる。 ・実施前、中、後の評価ができる。	
6	通年			
7	通年	「洗髪」 ・洗髪の基本技術を理解する。	・実施前の評価ができる。 ・必要物品が準備できる。 ・患者への説明ができる。 ・洗髪の方法の根拠を述べる。 ・安全で心地よい洗髪について考えを述べることができる。	

8	通年	「洗髪」 ・患者の状態に応じた洗髪の基本技術を習得する。	・患者の状態に応じた洗髪の方法が選択できる。 ・安全で心地よい洗髪が実施できる。 ・実施前、中、後の評価ができる。	野村 あすか
9	通年			
10	通年	「手浴、足浴」「整容」 ・手浴、足浴、洗面、目・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り基本技術を理解する。	・実施前の評価ができる。 ・必要物品が準備できる。 ・患者への説明ができる。 ・「手浴・足浴」「整容」の方法の根拠を述べる。 ・安全で心地よい手浴、足浴、髭剃り、爪切りについて考えることができる。	
11	通年	「手浴、足浴」 ・手浴、足浴の基本技術を習得する。	・患者の状態に応じた手浴、足浴の方法が選択できる。 ・安全で心地よい手浴、足浴が実施できる。 ・実施前、中、後の評価ができる。	
12	通年			
13	通年	「整容」 ・髭剃り、爪切り、洗面、目、耳、鼻の清潔を保つための基本技術を習得する。	・患者の状態に応じた髭剃り、爪切り、洗面、目、耳、鼻の清潔方法が選択できる。 ・安全で心地よい髭剃り、爪切り、洗面、目、耳、鼻の清潔援助が実施できる。 ・実施前、中、後の評価ができる。	
14	通年	「シャワー浴」 ・シャワー浴の基本技術を習得する	・患者の状態に応じたシャワー浴の方法が選択できる。 ・安全で心地よいシャワー浴が実施できる。 ・実施前、中、後の評価ができる。	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法	筆記試験(60%) レポート課題(25%) 技術課題(15%)			
準備学習など	1. 予習・復習を行う。 2. 授業後、疑問点を整理し解決する。 3. 事前に演習に取り組む準備とセルフトレーニングを行う。 4. 視聴覚教材による自己学習を行う。			
留意事項	この科目は、看護を学ぶうえで基本となる科目です。予習、復習を行い主体的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護技術の習得には練習が必要です。計画的に練習を行い、根拠を考えながら実施しましょう。清潔は身体、心理、社会面にも影響します。安全に実施することはもちろんのこと、心地よさも感じられる技術が習得できるよう努力しましょう。			

学科・学年	看護科 1年次
科目名	臨床看護技術Ⅰ 検査・治療・処置
担当者	岩田 幸代 緒方 麻由美
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義、演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえるvol.2 臨床看護技術 メディックメディア

<p>授業概要と目的</p> <p>臨床看護技術である「検査・治療・処置」の基本的知識・技術・態度について習得する。看護師としての役割と責務を理解し、対象への安全の確保と共に自分の身を守るための視点と検査・治療・処置の基礎的知識・技術・態度を習得する。看護技術では、「看護技術を支える要素」である医療安全の確保、患者および家族への説明と助言、的確な看護判断、対象が効果的で安全な検査・治療・処置を受けるための看護技術を学ぶ。 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	<ul style="list-style-type: none"> 診察、検査、処置における看護師の役割を理解する。 対象者の心理を理解する。 診察における援助の方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 診察、検査、処置における看護師の役割を述べる。 対象者の心理を考える。 診察における援助の方法を述べる。 	岩田 幸代
2	後期	<p>「呼吸を整える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸を整える援助の必要性と方法を理解し、実施方法を身につける。 	<p>「呼吸困難」</p> <ul style="list-style-type: none"> 痰の特徴と排出のメカニズムを述べる。 体位ドレナージ、咳嗽介助、ハフイングの必要性、目的、方法、時間、危険性を述べる。 体位ドレナージの根拠を適応、禁忌を述べる。 体位ドレナージの前、中、後を評価する。 体位ドレナージを実施する。 	
3	後期	<p>「循環を整える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 循環を整える援助の必要性と方法を理解し、実施方法を身につける。 	<p>症状に応じた看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 体温調節の方法を述べる。 罨法の目的、方法、禁忌、観察を述べる。 罨法を実施する。 	
4	後期			
5	後期	<p>「呼吸を整える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 酸素吸入療法の必要性と方法を理解する。 口腔内、鼻腔内吸引、気管内吸引の必要性と方法を理解する。 	<p>「酸素療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 酸素療法における看護師の役割を述べる。 酸素療法の目的と種類を述べる。 酸素供給の設備と容器を述べる。 酸素ポンベの酸素の残量計算する。 <p>「口腔内、鼻腔内吸引」「気管内吸引」</p> <ul style="list-style-type: none"> 吸引の目的、適応、禁忌を述べる。 吸引の必要物品を述べる。 吸引の手順と根拠を述べる。 	
6	後期	<p>「呼吸を整える」</p> <ul style="list-style-type: none"> 口腔内、鼻腔内吸引、気管内吸引の実施方法を身につける。 酸素吸入療法の実施方法を身につける。 	<p>「口腔内、鼻腔内吸引、気管内吸引」</p> <ul style="list-style-type: none"> 吸引の実施前、中、後の観察ができる。 吸引の必要物品を準備する。 根拠をもとに安全な吸引を実施できる。 患者に説明と同意を得る。 <p>「酸素療法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 酸素ポンベ、酸素流量計の取り扱い。 酸素カニューレ、酸素マスクの取り扱い。 	
7	後期			

8	後期	「症状、生体機能管理技術の基礎知識」 ・検体検査、尿検査、便検査、喀痰検査について理解する。 「診察の介助」 ・診察の介助について理解する。 ・診察を受ける患者心理を理解する。	・検査の目的を述べる。 ・検査の必要物品を述べる。 ・検査の実施方法を述べる。 ・検体(血液・尿)の取り扱いを説明できる。 ・診察の介助の目的を述べる。 ・診察時の体位と介助を述べる。 ・診察・検査を受ける患者の心理を考える。	緒方 麻由美
9	後期	「検体検査」 ・血液検査、静脈血採血について理解する。	・検査の目的を述べる。 ・採血部位を述べる。 ・採血前、中、後の観察内容を述べる。 ・必要物品を述べる。 ・採血時の根拠を述べる。 ・検体の取り扱い時の留意点を述べる。 ・採血、検体の取り扱い時に起こりやすい事故について述べる。	
10	後期	「静脈血採血」 ・静脈血採血法を身に付ける。	・採血部位を選択できる。 ・採血前、中、後の観察ができる。 ・必要物品を準備できる。 ・患者への説明、声掛けができる。 ・安全に検体の取り扱いができる。 ・静脈血採血を実施できる。	
11	後期			
12	後期	「検査、処置の介助」 ・胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺について理解する。	・検査の目的、内容、方法を述べる。 ・検査前、中、後の観察を述べる。 ・穿刺部位、体位を述べる。 ・穿刺時の介助方法を述べる。	
13	後期	「創傷処置」 ・治癒課程について理解する。 「包帯法」 ・包帯法について理解する。	・創傷治癒過程とメカニズムを説明できる。 ・少々処置の目的と観察内容を述べる。 ・包帯法の目的、包帯の種類、禁忌を述べる。 ・部位に応じた包帯の巻き方を述べる。 ・三角巾の固定法を述べる。 ・実施前、中、後の観察内容を述べる。	
14	後期	「包帯法」 ・包帯法を身につける。	・部位に応じた包帯の選択と包帯法が実施できる。 ・三角巾の固定ができる。 ・実施前、中、後の観察ができる。	
15	後期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法	筆記試験(80%) レポート課題(20%)			
準備学習など	1. 予習・復習を行う。 2. 授業後、疑問点を整理し解決する。 3. 事前に演習に取り組む準備とセルフトレーニングを行う。 4. 視聴覚教材による自己学習を行う。			
留意事項	この科目は、看護を学ぶうえで必要な知識となる科目です。侵襲的な処置、またはその介助が含まれるため、解剖生理などの基礎知識に加え、検査・治療・処置の目的や留意事項、実、施方法、観察などを予習・復習し、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。			

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	臨床看護技術Ⅱ 学習支援
担当者	兼山 美千代
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護場面では、対象自身が自らの健康状態から必要な健康管理や自立した行動ができ、自分らしく暮らしていくために必要な学習を支援することが重要である。看護師はどの領域や健康レベルの如何にかかわらず、対象者の学習支援に向き合い、準備して実施することが求められる。</p> <p>対象の暮らしに視点を置き、看護の「気づき」を大切にしながら学習支援の意義・基礎的な援助方法を学ぶ。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	・学習支援とその対象について理解する。	・学習支援とはについて説明できる。 ・学習のモデルと理論について説明できる。 ・学習に影響する因子について説明できる。	兼山 美千代
2	後期	・学習支援の基礎知識について理解する。	・学習支援の基本的な考え方について述べる。 ・学習支援の様々な場について述べる。	
3	後期	・学習支援の技術について理解する。	・学習支援の進め方と方法について述べる。 ・教材の種類と活用について述べる。	
4	後期			
5	後期	・事例を使って学習支援の実際を理解する。	・個人を対象とした学習支援 ・アセスメントし計画を立案する。 ・計画から対象に必要な実践を考える。 ・必要な教材を作成する。	
6	後期		・グループで役割分担しロールプレイを実施する。 ・グループで「気づき」を述べる。 ・「気づき」から改善点等を評価する。	
7	後期			
8	後期	・実践について評価・講評する。	・実施の評価についてグループ毎に講評できる。	
成績評価方法	試験 (50%) 学習支援内容と教材 (25%) 評価と改善点 (25%)			
準備学習など	事例を理解するために必要な疾患学習を行い授業に臨む。			
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	地域で暮らす人の理解
担当者	二宮 麻衣
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

授業概要と目的

地域で暮らす様々な健康レベルにある人を理解し、その人らしく生活できるための看護が求められている。始めに地域のとらえ方・暮らしや暮らしの概念について学び、地域や暮らしと健康との関係性につなげる。学校周辺の地域の特性を知り地域の健康課題を考える。また、学校生活を送る自らも地域の一員として暮らしについて考えていく機会とする。その上で地域・在宅看護の背景をとらえ、地域・在宅看護活動へ展開する目的や機能について学ぶ。

ここでの学びを、地域・在宅看護論実習 I で地域の現状や取り組みに触れ、さらに深める。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「暮らしと地域のとらえ方」 ・暮らしと暮らしの概念を理解する。 ・地域を理解する。	・地域・在宅看護論の科目の意味を述べる。 ・地域・暮らしを述べる。 ・地域・暮らしと生活と健康の関係性を述べる。	二宮 麻衣
2	前期		・フィールドワークの内容を検討する。	
3	前期	「笹島中学校区を知ろう」 ・笹島中学校区を理解する。 ・学びをプレゼンテーションする。	・グループごとにフィールドワークする。	
4	前期		・笹島中学校区の特徴を説明できる。	
5	前期	「地域・在宅看護の基盤」 ・地域・在宅看護活動を理解する。 ・在宅看護の役割・機能を理解する。	・地域・在宅看護活動の概要を述べる。 ・在宅看護活動の特徴を述べる。	
6	前期	「地域・在宅看護の基盤」 ・在宅看護の対象を理解する。 ・生活の場に応じた看護とサービス提供 機関を理解する。	・サービス提供機関の特徴を述べる。 ・自立・自律支援の違いを述べる。 ・病状・病態の予測と予防の必要性を述べる。	
7	前期	「地域在宅看護を展開するための基本理念 と倫理」 ・各理論を理解する。 ・在宅看護特有の倫理問題を理解する。	・各理論の特徴を述べる。 ・看護倫理の概要を述べる。 ・倫理問題の特徴を述べる。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験(80%) 演習(20%)			
準備学習など	事前学習や自己学習を行い講義に参加する。 グループワークで自分の意見を積極的に発言する。 演習では、ファイル(2穴)を使用するため準備してください。(初回の講義において説明します。) PCを使用します。必ず講義には持参してください。(TEAMS/PowerPointを活用します。使用方法を復習して 臨みましょう。)			
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	療養者と家族の理解
担当者	藤田 るみ
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第7版

授業概要と目的

この科目は、看護の対象となる地域で暮らす対象とその家族の捉え方と支援のあり方について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「地域・在宅看護の対象者」 ・地域・在宅看護の対象者を理解する。	・対象者の様々なとらえ方を述べる。 ・健康レベルから見た対象者を述べる。	藤田 るみ
2	通年		・障がいレベルから見た対象者を述べる。 ・状態別、状況別に対象者を述べる。	
3	通年	「在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件」 ・在宅療養の成立要件を理解する。	・地域で療養する対象、家族側の条件を述べる。 ・サービス提供者側の条件を述べる。	
4	通年	「在宅療養の場における家族のとらえ方」 ・在宅療養の場における家族のとらえ方を理解する。	・家族の機能と役割を述べる。 ・家族形態に応じた看護を述べる。 ・家族のアセスメントをする。	
5	通年	「在宅療養者の家族への看護」 ・家族の介護力を理解する。 ・家族介護者への支援を理解する。	・家族の介護力をアセスメントする。 ・家族介護者への支援を述べる。 ・レスパイトケアについて述べる。	
6	通年	「療養者と家族へのケア」 ・事例から学ぶ	・事例療養者の基本状況・サービス提供状況を述べる。 ・事例の課題と家族の状況を述べる。	
7	通年		・療養者と家族ケアの実際を視聴し課題を述べる。	
8	通年	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験(80%) レポート(20%)			
準備学習など				
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	成人看護学概論
担当者	二宮 麻衣
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論

授業概要と目的

変化する社会に対応しながら暮らしを営む成人期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、それらの特徴をふまえ、健康のニーズや健康に及ぼす因子、健康状態が暮らしや社会的役割などに及ぼす影響について学ぶ。
成人の健康レベルに応じた経過別看護の特徴やセルフケアやセルフマネジメントをアセスメントし対象の暮らしに応じた健康的な暮らしがサポートできるよう支えるために必要な基礎的知識を学ぶ。
また、看護理論を通して成人期にある対象を多角的に理解する。

看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	・社会の中で暮らす成人の特徴を理解する。	・成人の特徴を理解する。	二宮 麻衣
2	通年	・成人の発達段階と発達課題について理解する。	・成人の発達段階と発達課題(エリクソン・ハビガースト・レビンソンの発達段階)について説明できる。	
3	通年	・成人各期における身体的特徴を理解する。	・成人各期の身体的特徴について説明できる。	
4	通年	・成人の暮らしを理解する。	・成人各期の暮らしを説明できる。	
5	通年	・成人の暮らしと環境について理解する。	・成人の暮らしと環境について説明できる。	
6	通年	・成人の暮らしと健康をまもりはぐくむシステムを理解する。	・成人の暮らしを支える保険・医療・福祉システムについて説明できる	
7	通年	・成人の健康をおびやかす要因について理解する。	・生活習慣、飲酒、喫煙、肥満などの要因について説明できる。	
8	通年	・成人の健康行動のとらえ方について理解する。	・暮らしの中で行われている、健康行動について説明できる。 ・行動変容を促進する看護アプローチについて説明できる。	
9	通年	・健康問題をもつ成人と看護師の人間関係について理解する。 ・成人における各看護アプローチについて理解する。	・健康問題をもつ成人と看護師の人間関係について説明できる。 ・看護アプローチについて説明できる。	
10	通年	・ヘルスプロモーションと看護についてについて理解する。	・ヘルスプロモーションについて理解できる。 ・ヘルスポロモーションを促進する看護の場と活動について説明できる。	
11	通年	・成人の健康レベルや状態に応じた看護の特徴について理解する。	・経過別の看護の特徴を説明できる。	

12	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護の基礎となる理論について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護の基礎となる理論(ストレス理論・セルフケア理論、自己効力理論、適応理論、アンドラゴジー、危機理論、病みの軌跡)について説明できる。 	二宮 麻衣
13	通年			
14	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの中におけるセルフケア、セルフケアマネジメントについて理解する。 ・成人期にある人への学習支援について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしに視点をおいたセルフケア、セルフケアマネジメントについて説明できる。 ・成人期にある人の暮らしに寄り添った学習支援を考えることができる。 	
15	通年	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験(70%) レポート(30%)		
準備学習など		自分自身の暮らしを取り巻く環境に関心を持ち、社会の動向の情報を意識する。		
留意事項				

学科・学年	看護科 1年次
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅠ リハビリテーション期
担当者	藤山 美由紀 辻 智之 小出 悠介 富永 美歩
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・校内実習・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

授業概要と目的
急性期から暮らしの中でリハビリテーションを受ける対象の特徴を理解し、暮らしを営む生活行動に着目した国際生活機能分類(ICF)に基づいて把握し、リハビリテーション期の看護を実践するための基礎知識を学ぶ。事例を通して、リハビリテーション期にある対象の特徴に気づき、その気づきを看護実践へ活かす看護について学ぶ、また、チーム医療におけるリハビリテーション期の看護の役割と多職種連携について学ぶ。 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・リハビリテーション期とその捉え方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションとは何かを述べる。 ・国際生活機能分類(ICF)とその構成要素について述べる。 ・リハビリテーション期に用いられる理論と概念を述べる。 	富永美歩
2	後期	・リハビリテーション期の看護を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持ちながら社会の中で暮らす対象を支援する看護の特徴を述べる。 ・急性期、回復期、生活期、在宅へ移行するリハビリテーションの目的と特徴を述べる。 	
3	後期	・生活機能障害に対するリハビリテーションを理解する。	・機能障害に応じたリハビリテーションの特徴と方法を述べる。	
4	後期	・リハビリテーション看護を展開するための基盤を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションを阻害する要因と促進する要因を述べる。 ・事例に基づく学習の情報や看護問題の特徴を述べる。 	
5	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な身体機能の評価尺度を習得する。 ・自動運動、他動運動を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関節可動域(ROM)の測定を理解・実施する。 ・徒手筋力テスト(MMT)を実施する。 ・自動運動、他動運動を実施する。 	辻智之
6	後期			
7	後期	・片麻痺のある人への移動の援助を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行介助補助具の種類と特徴を述べる。 ・杖歩行での階段昇降の方法と根拠を元を実施する。 ・車いす移乗の方法と根拠を基に移乗を実施する。 	小出悠介

8	後期	リハビリテーション看護の展開(1) ・リハビリテーションが必要な疾患とその特徴を理解する。	・脳卒中の症状と合併症、脳卒中の看護の考え方を述べる。 ・リハビリテーションチームにおける看護師の役割と多職種連携について述べる。	藤山 美由紀
9	後期	リハビリテーション看護の展開(2) ・リハビリテーション看護を理解する。	・脳卒中看護の回復過程に応じたリハビリテーションを述べる。	
10	後期	リハビリテーション看護の展開(3) ・リハビリテーション看護の実際を理解する。①	・事例に基づいてリハビリテーション看護を述べる。 (脳卒中の患者へのリハビリテーション)	
11	後期	リハビリテーション看護の展開(4) ・リハビリテーション看護の実際を習得する。①	・事例に基づいてリハビリテーション看護を実践する。 (脳卒中患者へのリハビリテーション)	
12	後期	リハビリテーション看護の展開(5) ・リハビリテーション看護の実際を理解する。②	・事例に基づいてリハビリテーション看護を述べる。 (入院から暮らしの中で行われる日常生活訓練と評価)	藤山 美由紀
13	後期	リハビリテーション看護の展開(6) ・リハビリテーション看護の実際を習得する。②	・事例に基づいてリハビリテーション看護を実践する。 (入院から暮らしの中で行われる日常生活訓練と評価)	
14	後期	リハビリテーション看護の展開(7) ・リハビリテーションを継続するための関わりを理解する。	・リハビリテーションが必要な成人に対し、リハビリテーションを継続するための関わり方を述べる。	
15	後期	1) 授業総括 2) 科目試験(60分)		富永 美歩
成績評価方法	(藤山)筆記試験50% (富永)30% (辻・小出)20%			
準備学習など	この科目では、脳梗塞の事例を扱う。そのため、脳梗塞の病態生理、診断と治療、症状および合併症について準備学習を行うこと。校内実習では移動技術、肢位と関節可動域の知識を要するため、その準備学習を行うこと。			
留意事項	この科目は、リハビリテーション期の看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			

学科・学年	看護科 1年次
科目名	老年看護学概論
担当者	岩田 幸代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 老年看護ゼンブガイド 照林社

授業概要と目的 老年期にある対象の特徴や、高齢者を取り巻く社会の動向と社会保障を理解し、高齢者一人ひとりがその人らしく暮らすことを支える老年看護の基礎的知識を学ぶ。 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。
--

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	老年看護の目的・特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護の目的・特徴を述べる。 ・老年看護の変遷を述べる。 ・老年看護を学ぶ前の自己の老年観を述べる。 	岩田 幸代
2	通年	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題(1) 加齢に伴う身体的特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う身体的変化の特徴を述べる。 	
3	通年	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題(2) 加齢に伴う身体的特徴を体験を通して理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験により、高齢者の身体的変化による心理状態を説明できる。 	
4	通年	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題(3) 加齢に伴う心理・社会的特徴を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心理的特徴である人格、記憶、情緒の変化について述べる。 ・高齢者の社会的変化である役割の変化について述べる。 ・超高齢化社会の現状について述べる。 ・高齢者とその家族の生活と健康について述べる。 	
5	通年	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題(4) 老年期の発達課題を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護の理論・概念を述べる。 ・老年期の発達課題について述べる。 	
6	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(1) 高齢者をとりまく社会問題を知り、高齢者の置かれている環境を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の統計データの分析 ①高齢社会への国際的動向を述べる。 ②我が国の高齢社会の現状について統計データを述べる。 ③変化する高齢社会と家族の特徴を述べる。 	
7	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(2) 高齢者を支える社会制度とその変遷を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉の動向 ①老人福祉法、老人保健法について述べる。 	
8	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(3) 介護保険制度とそのサービスについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉の動向 ①介護保険法の理念と特徴を述べる。 ②介護保険と医療の関係を述べる。 ③サービスとその活用方法を述べる。 	

9	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(4) 高齢者を取りまく社会状況を理解する。	・高齢者を取りまく社会状況 ①高齢化が及ぼす経済社会への影響について述べる。 ②職業生活への影響について述べる。	岩田 幸代
10	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(5) 高齢社会の権利擁護の概念について理解する。	・高齢社会の権利擁護の概念 ①高齢者の虐待について意見交換できる。 ②成年後見制度について述べる。	
11	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(6) 高齢者におけるエンドオブライフケアについて理解する。	・エンドオブライフケア ①高齢者のエンドオブライフケアについて述べる。 ②意思決定の支援について述べる。	
12	通年	高齢者を取り巻く社会と社会保障(7) 在宅医療とエンドオブライフケアを理解する。	・エンドオブライフケア ①DVDの視聴から、在宅医療とエンドオブライフケアについて自己の考えを述べる。	
13	通年	高齢者の健康観や価値観、生活観を知るための関わり方を理解する。	・老年期の心理・社会的特徴の変化から高齢者の健康観や価値観、生活観を知るための方法を述べる。	
14	通年	高齢者との関りから、高齢者の特徴を理解し、自己の老年観を明確にする。	・老年期の心理・社会的特徴の実際を知り、高齢者の健康観や価値観、生活観を理解する。 ・老年看護を学び、自己の老年観の変化を述べる。	
15	通年	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法	筆記試験(70%) 課題(30%)			
準備学習など	担当教員は臨床での看護師経験を活かし、老年看護を教授していきます。この科目は、老年看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			
留意事項	1. 授業の前後は予・復習を行う(1日45分の予・復習:15回で675分) * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。			

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	小児看護学概論
担当者	伊藤三鈴
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義、グループワーク、グループ発表、課題レポート
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>子どもの看護の変遷と現代社会の特徴を踏まえ、子ども看護の特徴を理解する。看護の対象である子どもの成長・発達概念と各発達段階での成長・発達の特徴を理解する。また、子どもの人格形成や暮らしの基盤となる家族の特徴を理解し、子どもとその家族を支えるため、取り巻く社会の問題や社会保障制度を学習する。</p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	小児看護の特徴と理念を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 小児看護の理念と対象を述べる。 小児医療と小児看護の変遷を述べる。 	伊藤三鈴
2	通年		<ul style="list-style-type: none"> 我が国の人口構造と子どもの死亡について述べる。 小児看護の課題を述べる。 	
3	通年		<ul style="list-style-type: none"> 小児看護における倫理と子どもの権利を述べる。 	
4	通年	子どもの成長・発達を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長・発達の特徴を述べる。 	
5	通年		<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長・発達評価を述べる。 	
6	通年	新生児の特徴と支援を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の形態的特徴・生理的特徴を述べる。 新生児の看護の特徴を述べる。 	
7	通年	乳児の特徴と支援を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 乳児の形態的特徴・生理的・社会的特徴を述べる。 乳児の看護の特徴を述べる。 	
8	通年		<ul style="list-style-type: none"> 食の発達を述べる。 	
9	通年	幼児の特徴と支援を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の形態的特徴・生理的・機能的発達を述べる。 	
10	通年		<ul style="list-style-type: none"> 情緒・社会的特徴を述べる。 幼児の看護の特徴を述べる。 	
11	通年	学童児・思春期の特徴と支援を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 学童期・思春期の態的特徴・生理的・社会的特徴を述べる。 学童期・思春期の看護の特徴を述べる。 	

12	通年	家族の特徴とアセスメントを理解する。	・統計からみた現代社会における家族の特徴を述べる。	伊藤 三鈴
13	通年		・統計からみた子どもの事故の特徴と要因を述べる。	
14	通年	子どもと家族を取り巻く法と制度を理解する。	法と制度 ・予防接種・学校保健・臓器移植 について述べる。	
15	通年	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法		科目試験(90%) レポート・課題(10%)		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1年次
科目名	母性看護学概論
担当者	野田 貴代 片岡 笑美子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院

授業概要と目的

女性の一生を通し、母性の健康と次世代の健全育成を支援するため、母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状をジェンダーやセクシュアリティも含めて理解する。また生涯を通しての性と生殖に関する健康を守る観点から、女性のライフサイクルにおける形態・機能変化を理解し、女性だけでなくそのパートナーや家族、そして家族が暮らす地域社会の健康支援に関する看護の役割を考える。

助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「母性看護の考え方」 ・母性看護の概念を理解し、母性看護の対象と役割を理解する。	・母性の定義を述べるができる。 ・母性の概念に基づき、母性看護の対象を述べるができる。	野田 貴代
2	後期	「母子関係と家族の発達」 ・家族のサブシステムである母子関係と、家族機能、家族の発達過程について理解する。	・愛着について述べるができる。 ・母子用語作用と母子関係形成について述べるができる。 ・家族の発達課題について述べるができる。	
3	後期	「母子を取り巻く社会環境の変遷と現状」 ・母性看護の歴史と統計的指標からその変遷を知り、母性看護に関わる法律と施策の観点から、母性看護の現状を理解する。	・母性看護の変遷について述べるができる。 ・母子保健統計の動向から、母子保健施策について述べるができる。	
4	後期	「女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化」 ・性分化のしくみと生殖器の発達過程を理解し、女性のライフサイクルにおける形態・機能変化と、母性の発達・成熟・継承を理解する。	・生殖器の形態と機能について、その特徴を述べるができる。 ・正常な性周期について述べるができる。	
5	後期	「女性のライフサイクルと家族」 ・母性看護の対象となる女性やその家族がどのような社会で暮らし、どのような影響を受けて現在に至っているかを理解する。	・家族の発達課題と家族看護について述べるができる。 ・母性の発達と成熟、継承について述べるができる。	
6	後期	「女性のライフステージ各期における健康問題と看護①思春期、成熟期」 ・女性の身体機能や性に関わる知識の普及の必要性を知り、女性の意思決定への支援方法を理解する。	・思春期の特徴とその課題について述べるができる。 ・成熟期の特徴とその発達課題について述べることができる。	
7	後期	「女性のライフステージ各期における健康問題と看護②更年期、老年期」 ・身体機能の衰えや老い・死への不安等の心身の変化を知り、アイデンティティの再体制化への支援方法を理解する。	・更年期の特徴とその課題について述べるができる。 ・老年期の特徴とその発達課題について述べることができる。	

8	後期	「リプロダクティブヘルスに関する概念」 ・リプロダクティブヘルス/ライツを理解し、母性看護を含む今後のヘルスケアの課題について考察する。	・リプロダクティブヘルス/ライツの定義、課題について述べるができる。 ・リプロダクティブヘルス/ライツの世界の動向について述べるができる。	野田 貴代
9	後期	「リプロダクティブヘルス関連する法と施策」 ・リプロダクティブヘルスに関する動向を認識し、母性看護にかかわる法律を理解することができる。	・母子保健に関連する法律と施策について述べるができる。 ・母子保健に関連する社会資源について述べるができる。	
10	後期	「母性看護に必要な技術」 ・母性看護に用いられるおもな看護技術とその特徴、およびそれらの関連性を理解する。	・母性看護における女性の意思決定支援について述べるができる。 ・ヘルスプロモーションの定義について述べるができる。	
11	後期	「家族計画の考え方」 ・女性や次世代の健康を守るための具体的な方法を理解する。	・家族計画とは何かを述べるができる。 ・家族計画について、その具体的な方法について述べるができる。	
12	後期	「性感染症、人工妊娠中絶とその予防」 ・主な性感染症についてその概要および診断や症状、妊娠や胎児・新生児への影響を知り、その予防方法や感染した女性への看護について理解する。	・性感染症とは何かを述べるができる。 ・性感染症に感染した際の、その女性や妊婦・胎児・新生児への影響について述べるができる。 ・人工妊娠中絶の現状と問題点を述べるができる。	
13	後期	「性暴力を受けた女性へのケア・児童虐待と看護」 ・性暴力の社会的問題および女性の健康に及ぼす影響を理解することができる。	・性暴力被害の実際について、現状と問題点を述べるができる。 ・被害女性へのケアについて述べるができる。 ・児童虐待の現状と虐待予防について述べるができる。	片岡 笑美子
14	後期	「国際看護」 ・看護職者は国際的な感覚が不可欠であり、対象者にとって最善の治療や看護ケアを考える必要性を理解する。	・在日外国人の母子保健の現状と問題点を述べるができる。 ・在日外国人の母子保健対策について述べるができる。	野田 貴代
15	後期	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法		(野田)筆記試験(70%) レポート課題(30%)		
準備学習など		生と性に関わる問題について、日ごろから関心を持って情報を得るようにすること。		
留意事項				

キャンパスライフガイド

学科・学年	看護科 1年次
科目名	精神看護学概論
担当者	吉田 圭子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院

授業概要と目的

健康な精神生活を支えるための看護の意義と役割を学ぶ。精神看護の基本的概念や歴史的変遷を学び、障がいの定義や精神障害というとらえ方について学ぶ。精神疾患の特徴や症状、治療や回復プロセスから、精神障害を発症するということをイメージできるよう学びを深める。また、精神看護の制度を学び、今後の課題について理解を深める。看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義を担当する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	精神医療、精神看護の目標を理解する。	精神看護学の考え方、精神障害を持つ人の病いの体験と精神看護、メンタルヘルスを述べる。	吉田 圭子
2	通年	精神保健の考え方について理解する。	精神の健康、ストレスと健康の危機、心的外傷を述べる。 精神障害というとらえ方について考えることができる。	
3	通年	心のはたらきについて理解する。	意識と認知機能、感情、学習と行動、知能について述べる。 精神科における心理検査について述べる。	
4	通年	心のしくみと人格の発達を理解する。	人格と気質、自我の発達段階について述べる。 ライフサイクルとアイデンティティ、ボウルビーの愛着理論自己愛について述べる。	
5	通年	システム論について理解する。	システムとしての人間関係、家族システム論、人間と集団について述べる。事例を読み解く。	
6	通年	精神疾患1について理解する。	さまざまな精神症状、精神障害の診断と分類について述べる。	
7	通年	精神疾患2について理解する。	統合失調症、統合失調症の治療、回復プロセスについて述べる。 事例から疾患をイメージできる。	
8	通年	精神疾患3について理解する。 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	気分障害、気分障害の治療、経過と予後 不安障害 パニック障害 強迫性障害 急性ストレス反応 適応障害 について述べる。 事例から疾患をイメージする。	
9	通年	精神疾患4について理解する。 各発達段階で現れやすい精神障害	アディクション看護 知的能力障害 てんかん 発達障害 摂食障害 について述べる。 事例から疾患をイメージする。	

10	通年	精神疾患5について理解する。 各発達段階で現れやすい精神障害	パーソナリティ障害 適応障害 高次脳機能障害 老年期うつ 認知症 について述べる。 事例から疾患をイメージする。	吉田 圭子
11	通年	精神科における治療について理解する。 精神療法 薬物療法1	精神分析 認知行動療法 芸術療法 精神科における薬物療法について述べる。	
12	通年	精神科における治療について理解する。 薬物療法2 電気痙攣療法 社会療法	看護師による服薬への関わり 薬物療法における 看護計画をイメージする。 ECT TMS作業療法 精神科リハビリテーションの 特色を述べる。	
13	通年	精神障害と治療の歴史 日本における精神医学・精神医療の流れ について理解する。	精神障害者の処遇 戦後の日本の精神福祉について述べる。	
14	通年	精神障害と社会学について理解する。 精神障害と法制度について理解する。	精神看護における法律 精神科領域に必要な法律 と制度 医療法 精神保健指定医の規定 障害者 基本法 など様々な法律を述べる。	
15	通年	1)授業総括 2)科目試験(60分)		
成績評価方法		筆記試験(100%)		
準備学習など				
留意事項				

学科・年次	看護科 1学年 全期
科目名	基礎看護学実習 I 看護活動の実際を知る
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 2.系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I・II 医学書院 3.系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護学総論 医学書院 4.看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 5.看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

科目のねらい
病院・病棟の構造・機能の実際を知る。また看護師の診療の補助技術、療養上の世話の見学・一部実践を通して、看護活動の実際を学ぶ。さらに学生がコミュニケーションを通して観察や環境を整える技術を提供するなかで、患者との良好な関係を構築し、「看護とは何か」を考え看護を学ぶ動機づけとなることをねらいとする。担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標と学習内容	
科目目標 1-1：病院、病棟の構造・機能を知る。	
具体的目標	実習内容
1) 病院、病棟の構造・機能と特徴を述べる。	(1) 病院全体オリエンテーション (2) 病棟オリエンテーション ・病棟の特徴 ・病室・病床(個室・多床室) ・病室の構成 ベッド、ナースコール、床頭台、オーバーベッドテーブル、椅子、カーテン、温度、湿度、光、音、色彩、空気の清浄性とにおいて、人的環境、安全性、快適性
科目目標 1-2：病院における看護師の役割と機能を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 看護師が行う日常生活援助に同行し看護の実際がわかる。	(1) 診療の補助の見学 (2) 看護師の行う日常生活援助の見学 ①コミュニケーション ②環境調整(ベッド周囲、病床、リネン交換) ③食事援助 ④排泄援助 ⑤活動・休息援助 ⑥苦痛の緩和・安楽確保 ⑦清潔・衣生活援助 (3) 標準予防策(スタンダードプリコーション) ①手指衛生 ・日常的手洗い ・衛生的手洗い ②个人防护用具(PPE) ・手袋 ・サージカルマスク ・ゴーグル、フェイスシールド ・エプロン、ガウン ③医療廃棄物の取り扱い

2) 看護師の言動の根拠がわかる。	(1) 看護師のコミュニケーション技術の実際 ①看護師の言動 (コミュニケーション技術) ②患者の反応 ③コミュニケーションの場面から気づいたこと ④コミュニケーションの場面から感じたこと
科目目標 1-3 : 看護とは何かを考え、看護を学ぶ動機を明確にする。	
具体的目標	実習内容
1) 看護者としてふさわしい態度がとれる。 2) 自己の学びを表現する。	(1) 身だしなみ (2) 適切な言葉遣い (3) 患者を尊重した態度 (4) 指導を受ける際の態度 (5) 適切な報告・連絡・相談 (6) 記録物、提出物の期限厳守 (1) 主体的な学習活動 (2) 日々のリフレクション (3) 実習の振り返りと課題
科目目標 2-1 : 患者の入院生活の状況を理解する。	
具体的目標	実習内容
1) 患者の療養生活を述べる	(1) 患者の入院前と入院後の生活環境の違い ①生活リズム ②療養環境 ③安全面 ④快適性
科目目標 2-2 : 患者の状態に応じた環境を調整する。	
具体的目標	実習内容
1) 患者に応じた療養環境を整える。	(1) 患者に適した療養生活の環境 (安全性・快適性・プライバシー) ①病室・病床の選択 ・病室 (個室・多床室) ・病室の構成 ベッド・床頭台・ オーバーベッドテーブル ②温度・湿度 ③光と音 照度・採光・人工照明・騒音 ④色彩 ⑤空気の清浄性とにおい ⑥人的環境 ⑦ナースコール (2) 患者に適した環境調整の実施 ①説明と同意を得る ②必要物品の準備 ③ベッド周囲の環境整備 ④病床を整える ⑤使用物品の片付け ⑥報告

科目目標 2-3：患者に安全な方法でバイタルサイン測定を実施する。	
具体的目標	実習内容
1) 患者に適した方法で正確にバイタルサイン測定を実施する。	(1) バイタルサイン (体温・脈拍・呼吸・血圧) の測定 ①必要物品の準備 ②説明と同意を得る ③測定に適した体位 ④プライバシーの配慮 ⑤苦痛を与えない配慮 ⑥正確な測定方法、順序 ⑦随伴症状の有無と程度 ⑧使用物品の片付け (2) 報告 ①測定値を基準値と日常性と比較し、正常・異常の判断 ②測定値に影響を与える因子の有無
科目目標 2-4：看護者としての、援助関係の基盤となる行動を身につける。	
具体的目標	実習内容
1) 患者にこころよい印象で接する。 2) コミュニケーションを通して患者の入院生活に対する思いを述べる。 3) 自己のコミュニケーションを振り返り課題を明確にする。 4) 看護者としてふさわしい態度がとれる。	(1) 患者とコミュニケーションを図るための基本行動 ①自己紹介 ②外見・身だしなみ ③表情 ④視線 ⑤相手との距離・身体の向き ⑥姿勢・動作 ⑦ジェスチャー ⑧スキンシップ ⑨テリトリー (パーソナルスペース) ⑩におい ⑪声による表現 (声の大きさ・トーン) (1) コミュニケーションの見学・実施 ①看護師の対象とのコミュニケーションの見学 ・接近的コミュニケーション ・話の聴き方 ・オープンエンドクエスチョン クローズドクエスチョン ・何について会話を図っていたのかがわかる ②患者とのコミュニケーション ・傾聴 ・オープンクエスチョン ・クローズドクエスチョン ・アサーティブネス (1) 自己のコミュニケーションを振り返る ①コミュニケーションにおける自己の特徴 ②コミュニケーションにおける自己の課題 (1) 身だしなみ (2) 適切な言葉遣い (3) 患者を尊重した態度 (4) 指導を受ける際の態度 (5) 適切な報告・連絡・相談 (6) 記録物、提出物の期限厳守 (7) 主体的な学習 (8) 日々を振り返り、必要な学習を行い翌日の実習に活用する (9) 実習を俯瞰し自らの学びを発表する
評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき臨地実習指導者・担当教員で協議の上、評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと

学科・年次	看護科 1学年 前期
科目名	地域・在宅看護論実習 I 地域とその人々の暮らしの特徴を知る
担当者	学内担当教員、実習指導教員
単位数(時間数)	1単位(45時間)
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	1.ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア メディカ出版 2.「地域で暮らす人の理解」で作成した資料

科目のねらい

地域の特徴を知り、地域の取り組みや地域で暮らす人の健康を支える多様な場を知る。また、地域で暮らす人々と関わり、人々の思いや願い、多様な暮らしかたや暮らしぶりを知る。これらの経験を通して、地域の強みや課題について考え、地域の一員として、また、看護学生としてできることを考察する。
実習を通して、看護の対象は、「地域で暮らす人」であることを捉え、地域・在宅看護論の学習に具体的なイメージをもち取り組んでいけることをねらいとする。
担当教員と実習指導者は、臨床経験を活かし指導を行う。

科目目標1：収集した情報やフィールドワークから地域の特徴を知る。

具体的目標	実習内容
1) 地域の客観的情報から地域の特徴を知る。	(1) 名古屋市中村区(六反学区)について知る。 ①地域：行政区域、医療圏、生活圏 ②統計データ：人口・人口構成・世帯数・世帯構成・高齢化率・出生数・有病率・死因・受診率 ③公共施設：学校・保育園・保健医療福祉施設・市民センター・公園・スポーツ施設・警察署・消防署・スーパー・道路・交通機関 ④地域特性：環境・歴史・文化・習慣・ネットワーク ⑤社会活動：子育て・介護・消費活動・教育・仕事・経済活動
2) 地域の人々がどのように支え合って暮らしているのかを知る。	(1) 暮らしの中での取り組み ①自分の暮らしや健康について、どのように管理しているか(自助) ②近隣同士での助け合い、支え合いの体制(互助) ③地域活動： 防犯、ゴミ、清掃など(互助) ・ボランティア活動 ・住民組織の活動 ④災害時の備え(互助) ⑤地域包括支援センター 保健センター(共助) ⑥社会活動：子育て・介護・教育・仕事・余暇・人とのつながり
3) 地域の暮らしや健康をサポートするための多様な看護の場を知る。	(1) 地域で行われている、多様な看護の場を知る。 ①地域の病院・クリニック ②保健センター、まちな保健室 ③地域包括支援センター 訪問看護ステーション ④保育園・病児保育・病後児保育 ⑤デイサービス・デイケア・訪問入浴 ⑥NPO法人

科目目標2：地域の人々の思いや願い，暮らしかたや暮らしぶりを共有し，地域の強みや課題について考え，地域の一員や看護学生として自分にできることが分かる。

具体的目標	実習内容
1) 地域で暮らす人々の思いや願いを知る。 2) 地域の人々の，多様な「暮らし」について説明できる。 3) 地域の強みや課題を考える。 4) 地域の強みや課題から，自分にできることが分かる。	(1) 地域で暮らす人々の，暮らしかたや暮らしぶりから，暮らしに対する思いや願いを知る。 ①生活行動：個人の価値観（健康観・生きがい等）・習慣・ライフスタイル ②どのように暮らしを営んできたか ③暮らしの中で大切にしていること，生きがい ④学区の人々の思い，願い (1) 地域（六反学区）の暮らし ①人口動態の変化 ②地理的環境，自然環境 ③生活環境（利便性，生活するために必要な施設の充足度） ④保健医療福祉環境 (2) 地域環境の変化（昔→現在→未来） (3) 地域に暮らす人々の暮らしかた，暮らしぶり (1) 地域の強み，地域が抱えている課題 ①生活の支援体制 ②地域で安全に暮らすための支援 ③健康維持・増進への支援体制 (1) その人らしい暮らしへの支援 (2) 願いや思いを尊重するための支援 (3) 地域の強みや課題を考え，地域の一員として自分にできること (4) 地域の強みや課題を考え，看護学生として自分にできること

科目目標3：看護学生・社会人として，主体的な姿勢や倫理的配慮をもち行動する。

具体的目標	実習内容
1) 主体的な学習姿勢をもち行動できる。 2) 看護学生としてふさわしい身なり，言葉づかい，責任ある態度がとれる。 3) グループメンバーと協力し，実習に取り組むことができる。	(1) ゴールシート（ビジョン・ゴール） (2) 中間評価・最終評価 (3) 行動目標（達成度・振り返り） (4) 1日を通して感じたこと・気が付いたこと・学んだこと・課題の明確化 (5) 主体的な学習（事前学習・自己学習） (1) 学生としての姿勢・身だしなみ (2) 言葉づかい，挨拶，マナー (3) 相手を尊重した態度 (4) 人の話や助言を聞く姿勢 (5) 報告・連絡・相談，確認・連絡・報告 (6) 個人情報の保護・プライバシーの配慮 (7) 決められた事項の厳守 (8) 体調管理 (1) グループにおける協調性 (2) グループにおける自己の役割 (3) グループメンバーや他のグループを尊重した関わり (4) グループ間でのスケジュール調整・情報共有

評価方法	実習評価は、実習の取り組み状況、指定の記録用紙・レポート・実習に必要な学習などを総合して、評価基準に基づき、担当教員が評価する。
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと